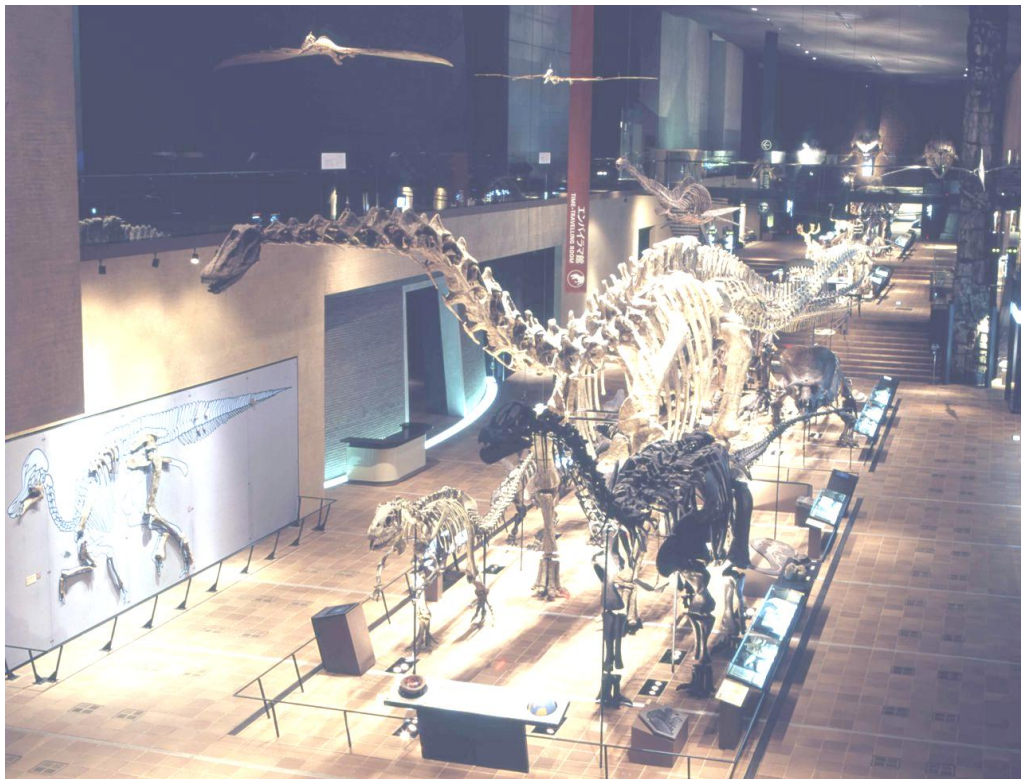


北九州市立自然史・歴史博物館
(北九州市立いのちのたび博物館)
年報

平成 23 年度



2013 年

館長あいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)は、平成14(2002)年11月3日に開館いたしました。そして、平成24年11月には、10年の節目をむかえることができました。平成23年度の入館者数は375,654人、開館以来の累積入館者数も3,426,608人に達し、これもひとえに来館者の方々に強い支持をいただいた結果であると考えております。

この博物館は、生命の進化の道筋を自然と人との両面から展示解説し、未来へ向け、私たちの生き方を考えるために「いのちのたび」をコンセプトにしています。46億年前の地球誕生から現代までを、さまざまな化石、動植物標本、歴史資料などからひもといています。これらの資料が、わたしたちが現在直面しているさまざまな環境問題を解決していくための糸口となることを願い、これからも「いのちのたび」が連綿と続いていくことを祈っております。

さて、ここに昨年度にひきつづき、平成23年度年報を刊行することとなりました。本年度は展示のリニューアルもひかえています。本年報により当館の活動概要を知っていただき、よりよい博物館を創り上げていくための積極的なご意見を頂きますようお願い致しまして、刊行のごあいさつとさせていただきます。

平成25年2月

北九州市立自然史・歴史博物館
館長 伊藤明夫

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

<理 念>

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

<方向性>

知的アクセス権を保障する博物館——知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館——将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館——社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

目次

館長あいさつ

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

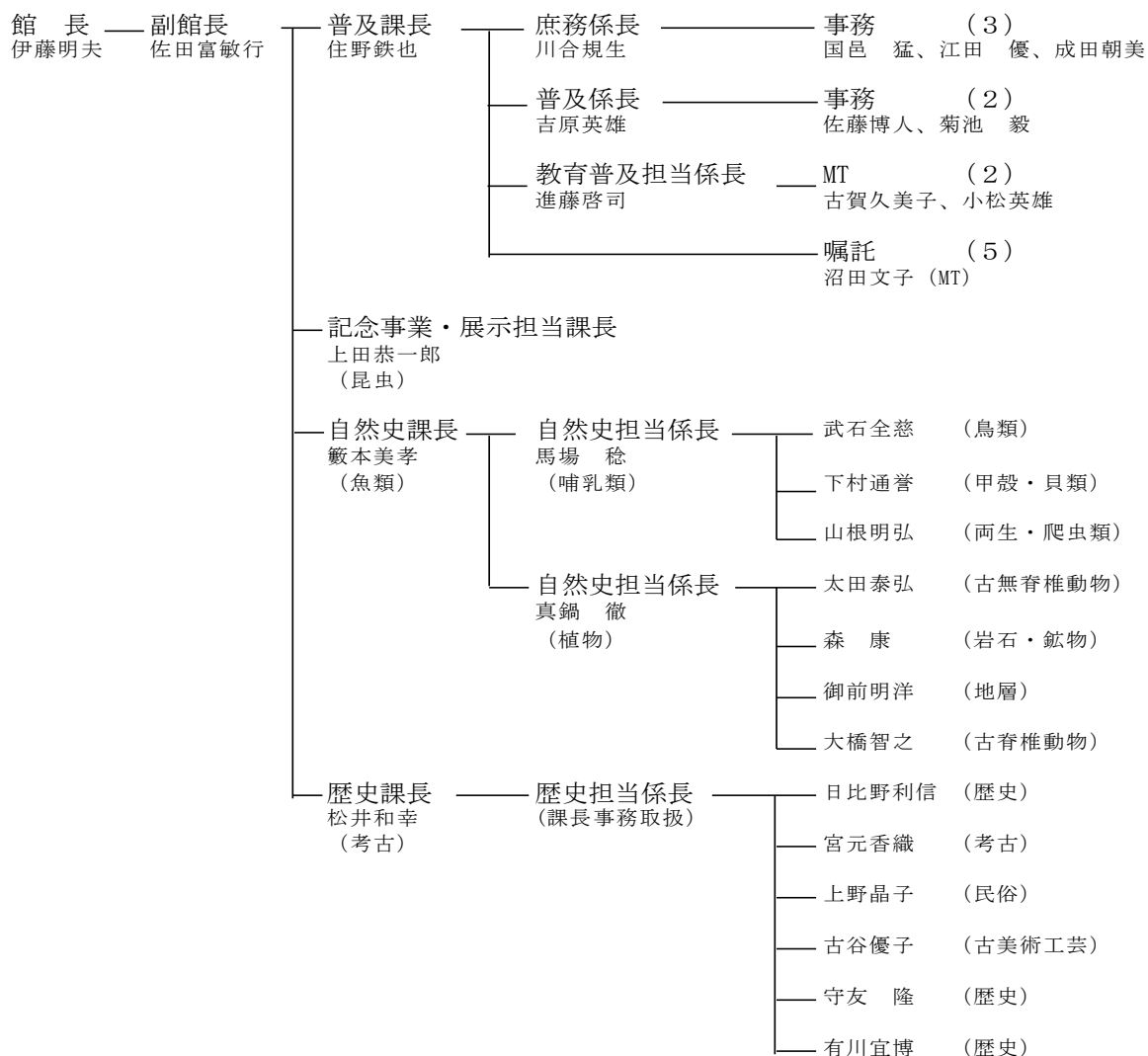
目次

	頁
1. 組織・運営体制.....	1
2. 博物館協議会.....	2
3. 平成 23 年度予算.....	4
4. 施設概要.....	5
5. 沿革.....	6
6. 入館者の状況.....	8
7. 視察受入状況.....	9
8. マスコミ報道一覧.....	10
9. 特別展.....	12
10. ぽけっと企画展.....	19
11. 教育普及活動.....	24
12. 博物館ボランティア（シーダー）の活動について.....	31
13. 自然史友の会の活動.....	32
14. 歴史友の会の活動.....	33
15. 資料の収集保存状況（自然史）.....	35
16. 資料の収集保存状況（歴史）.....	35
17. 資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	36
18. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	36
19. 学芸員研究業績（自然史）.....	37
20. 学芸員研究業績（歴史）.....	39
21. 博物館刊行物.....	40

1. 組織・運営体制

(1) 平成 23 年度組織

(平成23年5月1日現在)



(2) 名誉館員 (※役職は在職時)

- 太田 正道 (自然史博物館 館長)
- 藤丸 詔八郎 (いのちのたび博物館 参事)
- 戸来 義臣 (いのちのたび博物館 副館長)
- 税田 昭徳 (いのちのたび博物館 主査)
- 藤井 厚志 (いのちのたび博物館 参事)
- 小野 勇一 (いのちのたび博物館 館長)
- 岡崎 美彦 (いのちのたび博物館 主査)
- 永尾 正剛 (いのちのたび博物館 参事)

2. 博物館協議会

(1) 博物館協議会委員（任期 平成 23 年 9 月 1 日～平成 25 年 8 月 31 日）

会長	中越信和	広島大学大学院国際協力研究科教授
副会長	泉 優佳理	北九州市環境審議会委員
	伊澤雅子	琉球大学理学部教授
	上山敬義	北九州市立中央中学校校長
	木村洋子	アトリエ PAO 一級建築士事務所代表 東田まちづくり協議会
	佐藤睦子	梅光学院大学博物館学芸員（歴史）
	関口博之	NHK 北九州放送局局長
	竹治あけみ	北九州市立青葉小学校校長
	錦織亮介	北九州市立大学名誉教授
	真鍋 真	国立科学博物館地学研究部生命進化史研究グループ研究主幹
	森田 稔	九州国立博物館副館長

(2) 開催日時

平成 23 年 9 月 20 日（火） 13:30～15:50

(3) 内容

1) 博物館年報（平成 22 年度事業実績）について

- ・入館者数・・・375,590 人
- ・特別展開催実績・・・「どうぶつ大集合！～肉食系？草食系？～」(H. 22. 3. 20～H. 22. 5. 30)、
「昆虫大接近！～みんなであそぼう・虫たちの森～」(H. 22. 7. 17～H. 22. 9. 5)、
「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」(H. 22. 10. 9～H. 22. 11. 28)、
「古代メキシコ オルメカ文明展」(H. 23. 1. 2～H. 23. 3. 31)
- ・企画展・・・9 回開催
- ・自然史友の会、歴史友の会の活動実績
- ・ボランティア活動実績 登録 50 名
- ・館長出前授業「いのちのたび」
- ・学芸員研究業績
- ・セカンドスクール事業

2) 平成 23 年度事業計画

- ・特別展開催計画・・・「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(H. 23. 4. 23～H. 23. 5. 31)、
「世界の両生類・爬虫類大集合！」(H. 23. 7. 16～H. 23. 9. 4)、
「大連・モダンの風景／鉄道展」(H. 23. 10. 7～H. 23. 12. 11)、
小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル特別公開 (H. 23. 12. 22～H. 23. 12. 25)、
「大内文化と北九州」(H. 24. 1. 2～H. 24. 2. 12)、
「アンモナイトのふしぎ／み

んなで救った被災標本」(H. 24. 3. 10～H. 24. 3. 31、会期～H. 24. 5. 6)

- ・ 企画展開催計画・・・9回開催予定
- ・ 教育普及活動計画
- ・ ボランティアの活動計画
- ・ 自然史友の会、歴史友の会の活動計画

3) 市制 50 周年記念事業、開館 10 周年記念事業について

4) 報告事項

- ・ 釜山広域市海洋自然史博物館との友好交流について
- ・ 東日本大震災によって被災した「陸前高田市立博物館」の被災標本修復への協力について
- ・ 特別公開！ 山本作兵衛氏の炭鉱記録画～大作にかけた思い～について

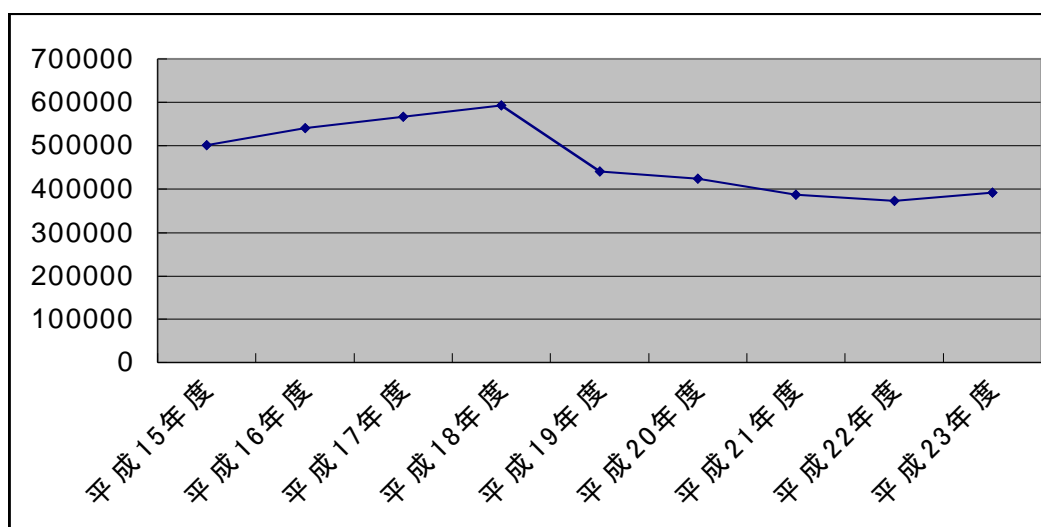
3. 平成 23 年度予算

歳 入 (単位：千円)		歳 出 (単位：千円)	
博物館使用料 (入館料など)	132,005	企画展・特別展開催経費	73,670
ミュージアムショップ使用料など	1,161	資料整備・調査研究経費	19,431
刊行物販売など	13,332	教育普及経費	5,719
		博物館維持管経費等	293,364
計	146,498	計	392,184

博物館予算の推移

年度	H. 14	H. 15	H. 16	H. 17	H. 18	H. 19	H. 20	H. 21	H. 22	H. 23
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467	441,058	424,070	387,868	372,731	392,184
備考	H. 14. 11. 3 開館		内、太陽 光発電設 備整備 32,000	内、太陽 光発電設 備整備 60,000	内、太陽 光発電設 備整備 108,000					

博物館予算の推移 (グラフ)



4. 施設概要

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨構造） 地上 3階
各室面積

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積	室名	面積
展示部門	6,139	研究処理部門	871	管理部門	624
アースモール(PMを除く)	1,855	地学系研究室	57	館長室	25
ぼけっとミュージアム (PM)	253	生物系研究室 (植物・昆虫)	29	副館長室	25
エンバイラマ館 (リサーチゾーンを含む)	1,067	生物系研究室 (動物・魚類)	29	事務室	163
自然発見館 (バイオリウムを含む)	581	歴史研究室	87	応接室	32
ギャラリー館	509	骨格標本作成室	36	会議室	62
歴史展示 (カルチャーモールを含む)	1,755	燻蒸室 (前室を含む)	30	印刷室・出版物保管室	29
こども館	89	解剖室	46	救護室	21
		無脊椎動物化石処理室	30	更衣室	13
情報部門	1,047	脊椎動物化石処理室	30	一般倉庫	57
ホール (ホフ・ソクギャリーを含む)	445	岩石鉱物処理室	37	交流員控室	25
ガイド館 (倉庫2を含む)	386	昆虫標本処理室	30	管理人室	26
情報館	216	動植物標本処理室	60	会議室 S	30
		液浸標本処理室	30	会議室 R	30
探究部門	204	技工室	60	会議室 X	49
実習室	123	整理室	60	外来市民研究室	37
講座室	81	暗室 (前室を含む)	26		
収蔵部門	2,506	撮影室	41		
荷解室	96	電子顕微鏡室	40		
一時保管室	64	コンピューター室	28	サービス部門	463
組立室	52	保存科学室	40	ミュージアムショップ	156
冷凍室・冷蔵室 (前室を含む)	49	薬品室・特殊薬品室	25	休憩ルーム	206
地学系収蔵庫	202	シャワー室	6	休憩デッキ	101
液浸標本収蔵庫	221	器材倉庫	14		
重量物収蔵庫	204			供用部門	5,093
植物標本収蔵庫	234				
動物標本収蔵庫	165				
昆虫標本収蔵庫	238				
模式標本収蔵庫	44				
歴史資料収蔵庫	430				
考古資料収蔵庫 (金属器を含む)	75				
特別収蔵庫	71				
古文書・古美術収蔵庫	140				
書庫	138			合計	16,947
展示準備室	83				

5. 沿革

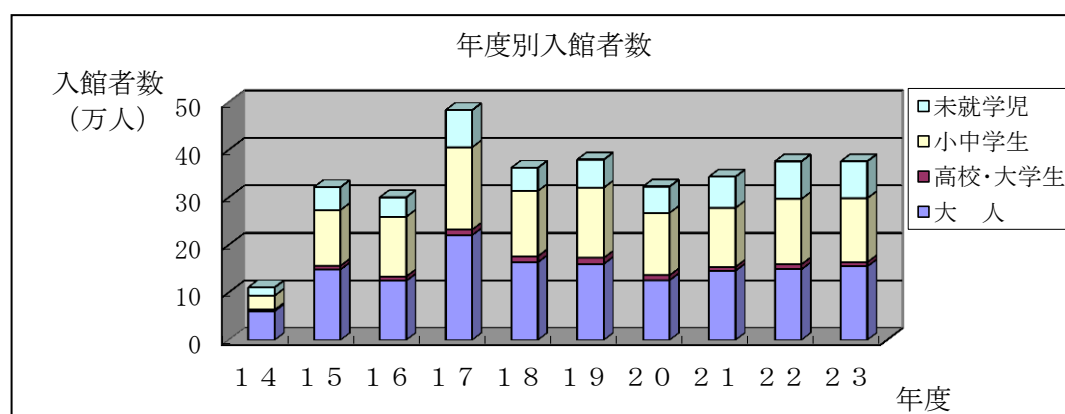
- 昭和 50(1975)年 【歴史】 8月 北九州市立歴史博物館開館
- 昭和 51(1976)年 【歴史】 1月 「豊前修験道・英彦山展」
【自然史】 5月 小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン料魚類化石デ
ィプロミスタスが発掘される
【歴史】 10月 「洞海湾の歴史展」
【自然史】 10月 北九州産魚類化石展「北九州市の魚類化石～化石から見た北九州～」 主催：
北九州市教委・北九州市産魚類化石展示実行委員会
- 昭和 53(1978)年 【自然史】 4月 戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置
【自然史】 10月 マッコウクジラの生の骨が到着
- 昭和 54(1979)年 【自然史】 1月 「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行
- 昭和 55(1980)年 【歴史】 7月 「日韓文化交流展～古代のロマンを求めて～」
- 昭和 56(1981)年 【自然史】 5月 北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの2・3・4階を仮施設として開館
- 昭和 58(1983)年 【考古】 8月 北九州市立考古博物館開館 九州最初の考古学専門館として小倉北区金田一丁目
に開館
【歴史】 10月 「北九州のまつり芸能展」
- 昭和 59(1984)年 【自然史】 9月 友好都市締結5周年記念として、中国大連市の大連自然博物館で「世界の昆虫」
展を開催
【歴史】 10月 「北九州甲冑展～よろい・かぶとの歴史～」
【自然史】 12月 響灘沖から巨大珪化木の引き上げ
- 昭和 60(1985)年 【歴史】 10月 「小倉藩創始 細川家の歴史展」
- 昭和 61(1986)年 【自然史】 8月 開館5周年記念特別展 「中国の動物と恐竜の世界展」
- 昭和 62(1987)年 【歴史】 10月 わが町の宝 「北九州市の指定文化財展」
- 昭和 63(1988)年 【考古】 8月 開館5周年記念 「北九州の中国陶磁展」
- 平成 2(1990)年 【歴史】 10月 「関門の潮流展～翔けぬけた鎌倉武士たち～」
- 平成 4(1992)年 【自然史】 3月 開館10周年記念出版物として「山田緑地の自然」を発行
- 平成 5(1993)年 【考古】 4月 考古博物館友の会発足
【考古】 10月 開館10周年記念「終末期の古墳展」
- 平成 7(1995)年 【考古】 5月 展示解説ボランティア制度発足
【歴史】 8月 戦後50周年記念 「北九州平和資料展～戦時下の市民の暮らし～」
- 平成 8(1996)年 【自然史】 7月 展示解説ボランティア制度発足
【総合】 10月 「東田地区文化施設整備構想検討委員会」(委員長 有馬朗人 東京大学名誉教
授)が、「環境」を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の4館からなるシャイ
ン博物館構想「東田地区文化施設の整備の方向について」を報告
- 平成 10(1998)年 【考古】 8月 開館15周年記念 「西と東の縄文土器展」
- 平成 11(1999)年 【総合】 6月 (仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
- 平成 12(2000)年 【歴史】 10月 「伊能忠敬と九州展」
- 平成 13(2001)年 【総合】 3月 (仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工
- 平成 14(2002)年 【総合】 11月 北九州市立自然史・歴史博物館オープン (小野勇一館長)
開館記念企画展「セイスモサウルスとその世界」
- 平成 15(2003)年 3月 開館記念企画展「COME BACK～よみがえれ文化と生きものたち～」
4月 特別展「わたしたちのまわりの鉱物展」
7月 特別展「発見! 虫王国」
9月 特別展「恐竜時代の生きものたち」
10月 特別展「発掘された日本列島2003」
- 平成 16(2004)年 1月 企画展「博物館のお正月」
3月 企画展「博多祇園山笠展」
5月 特別展「葛飾北斎展」

- 7月 特別展「からくり・ロボット体験ランド」
- 10月 企画展「片山正信氏の版画に見る～昭和の北九州百景」
企画展「襤褸の世界～堀切辰一・布のいのち見つめて～」
- 平成 17(2005)年 1月 特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」
3月 特別展「なぜなに動物ワールド」
7月 特別展「世界の両生・爬虫類展」
10月 入館100万人達成！
11月 特別展「大名細川家～文と武の軌跡～」
12月 特別展「恐竜博2005」
- 平成 18(2006)年 7月 特別展「昆虫ワールド・カップ2006」
12月 特別展「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展～司馬遷『史記』の世界～」
- 平成 19(2007)年 7月 特別展「世界最大の翼竜展」
10月 特別展「修験の歴史と自然」
12月 特別展「フェアブルにまなぶ」
- 平成 20(2008)年 3月 入館者200万人達成
開館5周年記念事業（企画展） 「5年間のあゆみ展」
4月 企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」
7月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念「近代北九州百年の歩み」 於：仁川広域市立博物館
7月 特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」
8月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念「開港場仁川の情景」 於：いのちのたび博物館 ぼけっとミュージアム
10月 特別展「美しき九州の旅～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行～」
- 平成 21(2009)年 1月 特別展「小倉のお殿さま～小笠原家と城下町～」
3月 企画展「ひとと海のものごたがり」
7月 特別展「恐竜ラボ2009 よみがえれ！恐竜ワールド」
9月 特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」
- 平成 22(2010)年 1月 特別展「布のこころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」
2月 大連市旅順博物館と友好交流に関する協定を締結
3月 特別展「どうぶつ大集合！肉食系？草食系？」
4月 伊藤明夫館長が就任
7月 特別展「昆虫大接近！～みんなであそぼう・虫たちの森～」
10月 特別展「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」
11月 仁川広域市立博物館および大連市旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」調印
- 平成 23(2011)年 1月 特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」
入館者300万人達成
2月 入館者300万人達成記念「ありがとう祭」
4月 特別展「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」
7月 特別展「世界の両生類・爬虫類大集合！」
10月 特別展「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展／鉄道展～あじあ号から新幹線へ～」
12月 小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル特別公開
- 平成 24(2012)年 1月 特別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」
3月 特別展「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」

6. 入館者の状況

	年度	大人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年計	累計
入館者総数 (人)	14	60,946 (55.1%)	2,677 (2.4%)	29,903 (27.0%)	17,096 (15.5%)	110,622 (100%)	162,527
	15	148,376 (46.2%)	7,950 (2.5%)	117,407 (36.5%)	47,692 (14.8%)	321,425 (100%)	483,952
	16	124,591 (41.5%)	9,262 (3.1%)	125,566 (41.8%)	40,644 (13.6%)	300,063 (100%)	784,015
	17	220,645 (45.6%)	11,699 (2.4%)	173,303 (35.9%)	77,848 (16.1%)	483,495 (100%)	1,267,510
	18	163,725 (45.2%)	12,630 (3.5%)	137,387 (37.9%)	48,549 (13.4%)	362,291 (100%)	1,629,801
	19	160,194 (42.2%)	12,771 (3.4%)	147,601 (38.9%)	58,881 (15.5%)	379,447 (100%)	2,009,248
	20	125,898 (39.0%)	10,487 (3.2%)	131,344 (40.7%)	54,997 (17.2%)	322,726 (100%)	2,331,974
	21	145,843 (42.5%)	8,151 (2.4%)	124,106 (36.1%)	65,290 (19.0%)	343,390 (100%)	2,675,364
	22	148,752 (39.6%)	10,516 (2.8%)	137,441 (36.6%)	78,881 (21.0%)	375,590 (100%)	3,050,954
	23	154,803 (41.2%)	8,933 (2.4%)	134,619 (35.8%)	77,299 (20.6%)	375,654 (100%)	3,426,608

※ 平成14年度は11/3～11/10無料期間51,905人（累計に含む）



*このほか、25～30ページに記しているように各種の教育普及活動を実施、普及講座だけでも約1,000名の方達に利用していただいている。これら講座等の参加者は上記入館者数には含まれていない。

7. 視察受入状況

平成23年度 視察訪問受入れ状況

No.	年月日	曜		訪問者・団体	人数	申請者
1	平成23年4月15日	金	10:45～12:45	日本動物園水族館協会・九州沖縄ブロック 前期園館長会議	20	建設・公園管理課
2	平成23年4月20日	水	14:30～15:20	仁川広域市派遣職員、国際交流員	4	総務企画・アジア交流課
3	平成23年5月12日	木	15:00～	港湾空港局・集客・誘致事業 中国航空、ジェトロ東京本部	11	港湾空港・集客・誘致担当課
4	平成23年5月27日	金	14:00～	福岡市少年科学文化会館基本構想検討委員会	4	福岡市こども未来局
5	平成23年6月2日	木	15:50～17:00	九州市議会議長会総会視察	260	市議会
6	平成23年6月2日	木		千葉大学大学院准教授	3	総務企画・企画
7	平成23年6月3日	金	13:30～17:00	福岡県博物館協議会総会	70	福岡県立美術館長
8	平成23年6月3日	金	15:30～	亀尾市投資通商課(クミ市・韓国慶尚北道)	3	亀尾市投資通称課
9	平成23年6月9日	木	13:00～	釜山広域市海洋自然史博物館長視察	3	釜山広域市海洋自然史博物館長
10	平成23年7月6日	水	10:00～12:00	山口県文化財課	2	山口県文化財課
11	平成23年7月8日	金	14:00～15:00	広島市議会議員視察	3	議会
12	平成23年7月14日	木	13:30～14:30	日田市博物館	3	日田市博物館
13	平成23年7月14日	木	15:00～16:00	総務企画局・国際事業開発担当課 海外研修生、国際交流員視察	12	総務企画・国際事業開発担当課
14	平成23年7月15日	金	14:00～15:00	総務企画局・国際事業開発担当課 タコマ市スタジアム高校生	21	総務企画・国際事業開発担当課
15	平成23年7月26日	火	16:20～17:00	日本旅行西日本営業本部教育旅行担当者視察	17	産業経済・環境観光担当課
16	平成23年7月26日	火	13:30～14:30	環境未来学習システム研修	15	環境学習課
17	平成23年7月27日	水	13:00～14:00	名古屋市議会	17	議会
18	平成23年7月29日	金	13:00～14:00	香港中華総商會蔡冠深(ジョナサン・チョイ)会頭及び香港貿易發展局日本主席代表一行	26	西日本新聞社アジア室長
19	平成23年8月4日	木	15:00～16:00	中国煙台市外事弁公室	3	総務企画・アジア交流課
20	平成23年8月9日	火	11:00～11:30	静岡県教育関係者モニターツアー	12	環境観光担当課
21	平成23年8月9日	火	13:00～16:00	南九州市・北九州市 子ども交流事業	80	子ども家庭・青少年課
22	平成23年8月10日	水	16:00～17:00	釜山広域市李副市長一行(海洋自然史博物館MOU調印式出席後視察)	6	
23	平成23年8月19日	金	13:30～14:20	総務省自治行政局選挙部	3	選挙事務局長
24	平成23年8月26日	金	12:10～17:00	九州地区理科教育研究大会	122	
25	平成23年9月8日	木	13:00～16:00	三重県生活・文化部新博物館整備推進室	3	三重県生活・文化部
26	平成23年9月29日	木	13:30～14:20	大韓民国・仁川広域市東区趙澤相区長	20	総務企画・アジア交流課
27	平成23年10月3日	月	10:00～12:00	石川県ふれあい昆虫館 技師	1	石川県ふれあい昆虫館
28	平成23年10月7日	金	13:30～	千葉県立中央博物館教育普及課	1	千葉県立中央博物館
29	平成23年10月16日	日	10:00～11:30	『絆』プロジェクト北九州避難者交流会	65	いのちをつなぐネットワーク推進課
30	平成23年10月19日	金	14:00～16:00	関門海峽・温故知新塾	106	門司区コミュニティ支援課
31	平成23年10月22日	土	14:00～16:00	国立夜須高原青少年自然の家タイ王国高校生25名、引率教師3名、スタッフ5名、(文部科学省招聘交流事業)	33	国立夜須高原青少年自然の家
32	平成23年10月29日	土	10:00～15:00	生涯学習指導者育成セミナー	29	生涯学習課
33	平成23年11月10日	木	9:00～11:30	静岡県袋井市議会	10	議会
34	平成23年11月16日	水	15:00～17:00	札幌市議会議員視察	4	議会
35	平成23年11月25日	金	10:00～15:00	全国商工会議所観光振興大会分科会一行	164	商工会議所
36	平成23年11月26日	土	11:00～15:00	全国商工会議所観光振興大会分科会一行	6	商工会議所
37	平成23年11月26日	土	11:30～12:10	東海大学阿蘇教養教育センター 農学部博物館実習	43	東海大学阿蘇教養教育センター
38	平成23年11月27日	日	13:30～15:00	梅光学院大学博物館博物館学課程実習	11	梅光学院大学博物館
39	平成24年1月25日	水	10:00～12:00	四日市市議会議員視察	1	議会
40	平成24年2月13日	月	14:30～15:30	中国大連旅行関係者	7	産経局 観光コンベンション課
41	平成24年2月17日	金	13:00	御船町教育長(御船町恐竜博物館)	5	自然史課
42	平成24年2月19日	日	9:30～12:00	韓国ホテル研究会	28	建設・水環境課
43	平成24年3月2日	金	13:00	韓国・華城市議会議員視察	18	コスモトラベル
44	平成24年3月4日	日	9:00～	韓国旅行代理店 視察ツアー	19	北九州市観光協会
45	平成24年3月29日	木	13:00～14:00	岡山市議会議員視察	6	議会

合計 1300

8. マスコミ報道一覧

(1) 平成23年度博物館関係報道状況記録（新聞）

No	年月日	報道社名	報道件名	内 容	備 考
1	平成23年4月22日	西日本	エビとカニの不思議 杉浦千里	イベント情報	自然史
2	平成23年4月24日	毎日	特別展	杉浦千里博物画展始まる	自然史
3	平成23年5月5日	毎日	エビカニ展 入場者1万人達成	1万人達成セレモニー	自然史
4	平成23年5月7日	毎日	エビカニ展のふしぎ	植物画やヤシガニなど展示 来場1万人	自然史
5	平成23年5月16日	西日本	野良猫の命を考える	街角で猫の実数調査を続ける 山根学芸員	自然史
6	平成23年5月21日	読売	被災標本修復	被災地から受け入れた標本の修復作業の様子	自然史
7	平成23年5月21日	西日本 毎日	ヌマエビ公開	魚部感謝状贈呈 ヌマエビ県内初公開	自然史
8	平成23年5月22日	西日本	ヌマエビ県内初公開	北九高魚部感謝状贈呈	自然史
9	平成23年5月28日	読売	被災標本鎮魂の修復	陸前高田被災標本鎮魂の修復	自然史
10	平成23年5月28日	西日本	陸前高田市所蔵の植物・昆虫標本	被災標本の再生へ懸命の努力	自然史
11	平成23年6月4日	朝日 西日本	作兵衛の原画公開	大作を含む7点・最大級の作品も展示うち初公開が5点	歴史
12	平成23年6月5日	読売 毎日	北九州市でも作兵衛展示	いのちのたび博物館開館機に本人に制作依頼	歴史
13	平成23年6月24日	西日本	ふるさと・人・話題	今と昔のくらし展 宮元学芸員	歴史
14	平成23年7月17日	毎日	特別展開幕	世界のカメ、ヘビ、カエルなど大集合	自然史
15	平成23年7月23日	毎日	世界の両生爬虫類展	特別展の本物がもつ迫力	自然史
16	平成23年7月28日	毎日	特別展イベント	世界の両生類・爬虫類展	自然史
17	平成23年7月29日	読売 西日本	イベント	特別展迫力に興奮両生・爬虫類展	自然史
18	平成23年8月1日	朝日	イベント	幸運のシロヘビにタッチ	自然史
19	平成23年8月3日	毎日	特別展展示紹介①	尾を振り威嚇 ガラガラヘビ	自然史
20	平成23年8月5日	毎日	特別展展示紹介②	鱗細工のよう	自然史
21	平成23年8月10日	毎日	特別展展示紹介③	神の使い	自然史
22	平成23年8月11日	西日本	博物館同士が友好交流調印式	北九州「いのちのたび」釜山 「海洋自然史」友好交流調印式	自然史
23	平成23年8月13日	毎日	入場者3万人突破	両生・爬虫類展入場者3万人突破	自然史
24	平成23年8月14日	西日本	世界の両生類・は虫類		自然史
25	平成23年8月16日	毎日	特別展展示紹介⑤	金褐色の斑紋	自然史
26	平成23年8月16日	毎日	博物館交流で合意	展示や研究など相互協力を	博物館
27	平成23年8月19日	読売	新種のカエル14匹公開	奄美大島で発見	自然史
28	平成23年8月22日	毎日	イベント	世界一行きたい科学広場	博物館
29	平成23年9月5日	毎日	お月見先取り	風流に工作体験十五夜と重陽の節句のオブジェを作ろう	歴史
30	平成23年10月3日	読売	安川敬一郎孫文支援の証し	展示関連新聞報道	歴史
31	平成23年10月8日	読売	孫文を訪ねて3安川敬一郎と志一つに	展示「安川・松本家と孫文」新聞報道	歴史 東京版にも掲載
32	平成23年10月18日	西日本	倭寇図巻は宗麟船団	倭寇図巻を北九州いのちのたび博物館で展示	歴史
33	平成23年10月19日	朝日	スズメバチ、中学生ら59人刺す	上田学芸員コメント	自然史
34	平成23年10月21日	読売	ギャラリー	特別展「大連、モダンの風景」	歴史
35	平成23年10月26日	朝日	庭に珍客	クロマダラソテツシジミが八幡東区で見つかり、上田学芸員のコメント	自然史
36	平成23年11月2日	西日本	孫文紀行	展示「安川・松本と孫文」関連新聞報道	歴史 東京版にも掲載
37	平成23年11月5日	読売	満鉄が撮った9000枚	特別展「大連・モダンの風景」新聞報道	歴史 東京版にも掲載
38	平成23年11月6日	読売	どんぐりいろいろ	縄文に思いをはせ宮元学芸員のどんぐりの講座紹介	歴史
39	平成23年11月19日	毎日 読売	板櫃川の片脚カエル大量発生	ヤゴの捕食が原因 武石学芸員調査報告	自然史
40	平成23年12月6日	読売	猫の島小倉北区藍島	なぜ藍島に猫が多いのか。猫の生態に詳しく山根学芸員のコメント	自然史

(1) 平成 23 年度博物館関係報道状況記録（新聞）続き

No	年月日	報道社名	報道件名	内 容	備 考
41	平成23年12月16日	西日本	山本作兵衛	山本作兵衛特別展	歴史
42	平成23年12月19日	西日本	道具に詰まる昔の知恵	江戸～昭和60点勢ぞろい上野学芸員、古賀先生	歴史、MT
43	平成23年12月22日	朝日 他	はやぶさ	はやぶさの帰還カプセルの展示	自然史
44	平成23年12月25日	西日本	華斑帖	庶民の心から知る堀切会長研究会25年記念誌を発刊	歴史
45	平成23年12月26日	朝日	たいけん講座	恐竜標本すす払い	自然史
46	平成24年1月4日	西日本 毎日 読売	大内文化と北九州	大内文化と北九州 特別展紹介	歴史
47	平成24年1月19日	朝日	大内文化と北九州特別展示	大内氏と北九州の意外と知られていない深いつながり	歴史
48	平成24年1月25日	読売	古里のガシャモク	小倉南区の市丸小 自生の池回復の手助け真鍋学芸員	自然史
49	平成24年1月31日	毎日	被災被害の標本修復	陸前高田の蝶や植物のよみがえった標本を公開	自然史
50	平成24年2月1日	西日本 毎日	被災の標本 修復完了	被災標本の修復完了で博物館で無料公開	自然史
51	平成24年2月6日	読売	被災標本612点修復完了	来月から無料公開	自然史
52	平成24年2月7日	西日本	八幡東区の人	古谷学芸員 八幡東区の人	歴史
53	平成24年3月3日	毎日	山本作兵衛	炭鉱資料と一緒に作兵衛を展示	歴史
54	平成24年3月11日	毎日	アンモナイトの不思議	20カ国から1000点アンモナイト	自然史
55	平成24年3月15日	読売	被災標本	東日本大震災で被災し修復された標本を博物館で展示	自然史

(2) 平成 23 年度博物館関係報道状況記録（ＴＶ）

No	年月日	報道社名	報道件名	内 容	備 考
1	平成23年4月6日	テレビ西日本「ギョギョ」つと	博物館情報	八幡の紹介で博物館の展示標本の紹介と解説	自然史
2	平成23年5月12日	NHK	被災標本修復		自然史
3	平成23年5月21日	RKB	ヌマエビ公開	福岡県立北九州高等学校魚部感謝状贈呈 ヌマエビ県内初公開	自然史
4	平成23年5月21日	RKB、TNC	被災標本修復	被災地から受け入れた標本の修復作業の様子	自然史
5	平成23年6月4日	NHK	北九州市でも作兵衛展示	山本作兵衛氏の炭鉱記録画の公開 ニュース報道	歴史
6	平成23年6月4日	TNC	北九州市でも作兵衛展示	山本作兵衛氏の炭鉱記録画の公開 「おっ！？テレビ」で紹介	歴史
7	平成23年6月4日	FBS	北九州市でも作兵衛展示	山本作兵衛氏の炭鉱記録画の公開 ニュース報道	歴史
8	平成23年6月23日	NHK北九州	ガシャモクの特徴	真鍋学芸員によるお糸池に自生するガシャモクの特徴や当該種の保全に向けた地元の方々との活動の様子	自然史
9	平成23年6月27日	J-COM北九州	炭鉱記録画	山本作兵衛氏 市政番組「ニュース55北九州」で紹介	歴史
10	平成23年7月1～10日	サン・ビデオアート	炭鉱記録画	「きちりー東」で山本作兵衛氏炭鉱記録画を紹介	歴史
11	平成23年10月18日	NHK	遠賀郡で中学生がハチに刺された	上田学芸員がハチに関するコメント	自然史
12	平成23年11月19日	NHK	板櫃川の片脚大量発生	板櫃川カエル調査の結果記者会見 武石学芸員 小野顧問	自然史
13	平成23年11月19日	山口放送ラジオな時間	特別展	特別展「大連・モダンの風景」ラジオ出演	歴史
14	平成24年1月24日	NHK	ガシャモク	真鍋学芸員が小学校の児童やNPO団体、自治会と調査や取材の意義	自然史
15	平成24年1月31日	TVQ、NHK、FBS、RKB、TNC	被災標本	陸前高田市立博物館の被災標本修復最終作業の内容 標本の受入経緯や修復法	自然史
16	平成24年3月10日	NHK	被災標本	みんなで救った被災標本	自然史
17	平成24年3月15日	KBCアサデス	被災標本	アサデスで生中継朝7時20分～10分間	自然史

9. 特別展



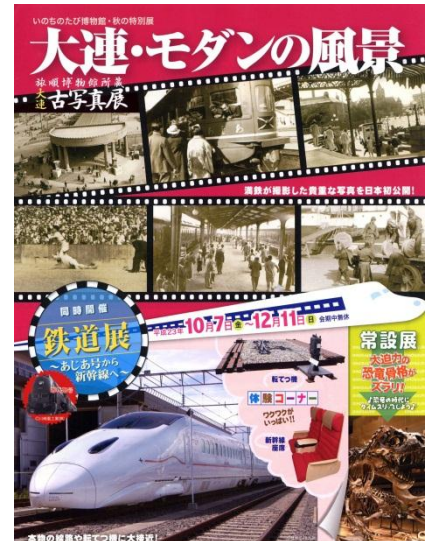
春の特別展

「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」



夏の特別展

「世界の両生類・爬虫類大集合！」



秋の特別展

「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展／鉄道展～あじあ号から新幹線～」



特別公開

「小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル特別公開」



冬の特別展

「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」



春の特別展

「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」

(1) 春の特別展 「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」

期間：平成23年4月23日（土）～平成23年5月31日（火） 39日間

会場：ギャラリー館

入場料：大人300円、高・大生200円、小・中生100円、未就学児無料

期間中の観覧者数：19,294人（目標：18,100人）

主催：北九州市立いのちのたび博物館

共済：杉浦千里の作品保存会

後援：朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、NHK北九州放送局

協力：船の科学館・海と船の博物館ネットワーク、東洋近代美術研究所、福岡県立北九州高等学校
魚部、海洋研究開発機構（JAMSTEC）

担当学芸員：下村通誉

概要

杉浦千里氏の描いたエビとカニの博物画を中心に据えて甲殻類の多様な形態、生態や行動を分かりやすく解説する展示を心がけた。博物画作品105点、エビとカニの実物標本300点、生きているエビとカニ100点の総数約500点の展示となった。博物画の横には拡大して観察できるように虫メガネを設置した他、クイズラリー、スタンプラリー、塗り絵、かぶり物の撮影コーナー、触れる展示や顕微鏡コーナーを作成して来館者が参加できる展示構成とした。来館者は甲の模様や刺の一本一本までが精密に正確に描かれ、実物よりも本物らしい博物画に歓声を上げて驚かれていた。また、一般的には食材としてのみ捉えられがちなエビとカニであるが、様々な行動、生活、形態の種がいることに興味を持っていただけたようであった。

ヤシガニやロブスターの生体などの飼育展示では、ガラス面の結露で観察しにくくなるなど、飼育方法以外にも展示方法に関して難しさがあった。

イベント

土日祝日は生きたカニやヤドカリを触って学べるタッチプールイベントを実施した。また、会期中に本物のタカアシガニの甲羅に色を塗ってお面を作る講座を4回実施した。北九州高校魚部の特別展への協力と北九州に生息する水生生物の研究と普及活動に対して特別展会場で感謝状の贈呈式を行った。



博物画観覧風景



世界のカニ類の剥製

(下村通誉)

(2) 夏の特別展「世界の両生類・爬虫類大集合！」

期間：平成23年7月16日（土）～平成23年9月4日（日） 51日間

会場：ギャラリー館

入場料：大人500円、高・大生400円、小・中生300円、未就学児無料

期間中の観覧者数：74,797人（目標：72,000人）

主催：北九州市立いのちのたび博物館

後援：RKB毎日放送、毎日新聞社

協力：岩国市教育委員会、(財)岩国白蛇保存会、(財)日本蛇族学術研究所、海野和男写真事務所、松香健次郎、九州両生爬虫類研究会、北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会両生爬虫類研究部会、(財)福岡文化財団、到津の森公園、ビッグベアーズフーズサービス

担当学芸員：山根明弘

概要

この特別展は、実際に生きている動物や標本をまぢかに観察し、本物の生き物の持つ迫力を体感し、さらには動物たちの巧みな環境への適応や、進化について学んでもらうことを目的とした。約80種の世界の両生類、爬虫類の飼育展示を中心に、ヘビなどの爬虫類の液浸標本（橋元浩一コレクション）約200点、ヘビやトカゲの全身骨格標本、世界のカエルグッズ約200点等の展示を行った。特に、家族で動物の姿をじっくりと観察し、子どもにパネルの解説を読み聞かせるなど、時間をかけて楽しみながら学ぶ親子連れの姿が多く見られた。

飼育展示にはガラガラヘビなど危険な種類もふくまれており、飼育許可を得たうえで管理には十二分な注意をはらい、万が一の事故に対する備えなども必要であった。

主な展示標本

ガラガラヘビ、天然記念物「岩国のシロヘビ」と「アマミイシカワガエル」、パーソンカメレオン、エボシカメレオン、ソバージュネコメガエル、ヤドクガエル類の飼育展示。パフアダー、ブラックマンバの液浸標本（橋元浩一コレクション）、北九州産のオオサンショウウオ標本など。

イベント

イブニングミュージアム、シロヘビ教室、ファミリーコンサート、いのたびカエル検定2011、クイズラリー、お絵描きコーナーなど。



人気者のケツメリクガメ



親子で生き物たちをじっくり観察

(山根明弘)

(3) 秋の特別展「大連モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展」

「鉄道展～あじあ号から新幹線へ～」

会期：平成23年10月7日（金）～平成23年12月11日（日） 66日間

会場：ギャラリー館

入場料：大人500円、高・大生300円、小・中生200円、未就学児無料

期間中の観覧者数：11,493人（目標：10,700人）

主催：北九州市立いのちのたび博物館

特別協力：大連市旅順博物館

後援：朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、NHK北九州放送局

協力：株式会社峰製作所、嘉麻市教育委員会、川崎重工業株式会社、九州大学鉄道研究同好会、九州鉄道記念館、九州旅客鉄道株式会社、新日本製鐵株式会社、ビコム株式会社、行橋市教育委員会

担当学芸員：松井和幸・日比野利信・宮元香織・上野晶子

概要

「大連モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展」は、かつて南満洲鉄道株式会社（満鉄）で撮影され、現在は大連市の旅順博物館が所蔵する貴重な古写真を日本初公開する展覧会である。112枚の写真資料を読み解きながら、近代都市大連の姿を明示し、日本を含む東アジアの近代史を考えるのが本展の目的であった。なお、当館と旅順博物館の友好交流協定に基づく最初の交流展覧会でもあった。展示は2章構成で、第1章は満洲の表玄関～都市の成り立ち～と題して、大連という都市の性格について紹介した。第2章は「夢の都」～花開く都市文化の諸相～と題し、大連に花開いた都市文化について紹介した。特別展初日におこなった開会式には、王家勝大連市文化広播影視局副局長、郭富純旅順博物館長、北橋健治北九州市長、柏木修北九州市教育長らの出席があった。

また同時開催としておこなった「鉄道展～あじあ号から新幹線へ～」では大陸を走ったあじあ号から新幹線へと続く技術の系譜を紹介し、鉄道に楽しく触れる展覧会とした。展示資料については、新日本製鐵や株式会社峰製作所、九州旅客鉄道株式会社など地元企業だけでなく、九州大学鉄道研究同好会などの団体から借用し、また協力を得て構成した点は、新しい試みといえる。

会期中の11月5日読売新聞朝刊に「満鉄が撮った9000枚」の記事が掲載されるなど、今回紹介した写真は貴重な発見として注目された。なお、展覧会に先立つ写真の調査については、財団法人カメイ社会教育振興財団の助成を得た。

イベント

「写真展」については、担当学芸員による展示解説を3日間・6回、各回1時間程度おこなった。「鉄道展」では、毎週日・祝日にNゲージを動かすイベント、毎週土曜日に転てつ機を動かすイベント「列車の進行方向を決めるのはキミだ！」を実施した。ほかに特別に団体で入場する幼稚園児・保育園児に向けた臨時的ミニガイドツアーもおこなった。常時体験できるイベントとしては、JR九州の特急車掌衣装試着体験やクイズ・スタンプラリーを展示場内で、展示場入口前に列車のおもちゃコーナーを設け、自由に遊べるようにした。おもに未就学児の子どもたちに好評を博した。



(松井和幸・日比野利信・宮元香織・上野晶子)

(4) 小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル特別公開

期間：平成 23 年 12 月 22 日（木）～平成 23 年 12 月 25 日（日） 4 日間（なお、12 月 21 日にプレス関係者等への内覧会を行った）

会場：ガイド館、ギャラリー館

入場料：無料

期間中の観覧者数：11,158 人（内覧会入場者 195 人を含む）

主催：北九州市、国立大学法人九州工業大学

共催：NHK 北九州放送局

協力：宇宙航空研究開発機構（JAXA）、日本宇宙フォーラム、佐賀県立宇宙科学館、山口写真事務所

担当学芸員：森 康

概要

小惑星探査機「はやぶさ」は、小惑星イトカワの観測および試料採集を目的として打ち上げられ、約 7 年間におよぶ運用を終えて地球帰還を果たした。本展示では、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、日本宇宙フォーラムなどの協力のもと、「はやぶさ」帰還カプセルの実物および関連資料の展示解説を行った。貴重な資料ゆえの展示に関する制約も多く、緊張しながらの展示であったが、4 日間で 1 万人以上の観覧者に見ていただいた。

1) 映像

ガイド館において、NHK 提供の映像「追跡！AtoZ “はやぶさ” 快挙はなぜ実現したか」を放映し、打ち上げから帰還までのストーリーを紹介した。

2) 導入部

ギャラリー館において、「はやぶさ」1/8 スケールモデル、イトカワ 1/1000 スケールモデル、大型パネルなどを展示し、「はやぶさ」の仕組みや日本の宇宙探査について解説した。

3) 帰還カプセル展示

帰還カプセルの全体模型、前面ヒートシールド、インストゥルメントモジュール、搭載電子機器部、パラシュート、背面ヒートシールドを展示解説した。

4) 関連資料展示

九州工業大学提供の太陽電池帯電放電試験サンプルや帰還カプセル風洞試験模型を展示し、「はやぶさ」を支えた北九州市の研究技術などについて紹介した。



会場入口



帰還カプセル等の展示

(森 康)

(5) 冬の特別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」

会期：平成24年1月2日（月・祝）～平成24年2月12日（日） 42日間

会場：ギャラリー館

入場料：大人700円、高・大生400円、小・中学生300円、未就学児無料

助成：独立行政法人日本芸術文化振興会

期間中の観覧者数：4,559名（目標：8,000人）

主催：北九州市立いのちのたび博物館

特別協力：東京大学史料編纂所

後援：福岡県教育委員会、大分県教育委員会、山口県、山口県教育委員会、山口市、山口市教育委員会、下関市教育委員会、朝日新聞社、中国新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、山口新聞社、読売新聞社、TVQ九州放送

協力：NPO法人歴史の町山口を甦らせる会

担当学芸員：有川宜博・古谷優子

概要

室町時代、西の京と呼ばれた山口を拠点に活躍した戦国大名大内氏と北九州の中世史について、初公開の品や重要文化財などを含む85点でひもとく展覧会。「1. 大内氏北九州へ」では歴代大内氏の事績と北九州で活躍した大内氏傘下の武将たちを、「2. 対外交渉と大内氏」では大陸との交易に励んだ大内氏と北九州の関係を、「3. 花開く文化」では交易や大内氏が生み出した豊かな文化について関係の品々により明らかにした。

大内氏ゆかりの品々を一同に会し、特に宇佐神宮の神輿や厳島神社の大鎧、倭寇図巻と抗倭図巻、雪舟の水墨画など貴重な作品を紹介したが、入場者数は目標を大きく下回った。中世の北九州にあって大内氏の存在と足跡がきわめて重要な意味を持つといっても、一般的にはなじみが薄いのは否定できない。関心を喚起し、わかりやすく紹介するなどの工夫が不足していた。今回の結果は重く受けとめ、今後を活かしたい。

イベント

1) 記念講演会

1月14日(土)「倭寇図巻と抗倭図巻」東京大学史料編纂所助教 須田牧子氏（参加者139名）

1月21日(土)「大内氏の対外交渉と関門海峡」九州大学大学院教授 佐伯弘次氏（参加者189名）

2月4日(土)「雪舟と大内文化」九州国立博物館研究員 畑 靖紀氏（参加者111名）

2) ギャラリートーク

1月15日、21日、29日、2月4日（各2回）、担当：有川宜博・古谷優子



展示場入口



ギャラリートークの様子

(有川宜博・古谷優子)

(6) 春の特別展 「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」

期間：平成24年3月10日（土）～平成24年5月6日（日） 58日間（平成23年度22日間、平成24年度36日間）

会場：ギャラリー館

入場料：大人400円、高・大生300円、小・中生200円、未就学児無料

期間中の観覧者数：25,121人（目標：16,900人）

主催：北九州市立いのちのたび博物館

後援：朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、RKB毎日放送

協力：九州大学大学院理学研究院、京都大学大学院理学研究科、東京大学総合研究博物館、和歌山県立自然博物館、王立ティレル古生物学博物館（カナダ）

担当学芸員：御前明洋

概要

化石の中でも良く知られたアンモナイトに注目し、アンモナイトおよび関係する生物の現生・化石標本、生体等を用いて、アンモナイトの形態の多様性や進化、生態、化石の産状、採集方法、他の生物とのかかわり、殻の色や模様、国内の様々な産地等について紹介した。難しい内容も多かったが、様々な色や形の標本が多数展示されていたことや、クイズラリーやスタンプラリー、ぬりえコーナーなどもあったことから、低年齢層の子どもにも喜んでもらえたようであった。また、アンモナイトという狭いテーマに絞られていたが、アンモナイトについて様々な視点から解説するコーナーがあったことにより、多くのお客様にお楽しみいただけたようであった。

展示点数が多かったことから、安定した状態で展示することに予想以上の時間をとられたことが難点であった。

主な展示標本

直径約1mの日本最大級のアンモナイト、海外13ヶ国のアンモナイト、様々な異常巻きアンモナイト、虹色に輝くアンモナイト、国内1道2府20県のアンモナイトなど、アンモナイト約230種900点を展示した。また、二枚貝、巻貝、オウムガイ、イカ、タコ、ティロサウルス・カンザスエンスなど、関係のある生物の現生・化石標本約100点や、調査道具なども展示した。

イベント

ギャラリートーク（5回）、アンモナイトのレプリカづくり（2回）、講演「アンモナイト研究とモササウルスの発見！」（1回）、タッチプール（期間中の土、日、祝日）を行った。



特別展の入口の様子



会場内の様子

(御前明洋)

10. ぽけっと企画展

(1)「細胞のひみつ」

期間：平成23年4月27日（水）～現在

会場：自然史ぽけっとミュージアム No. 2

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

すべての生き物は「細胞」からできており、われわれ人間の身体もその細胞が60兆個集まった塊にすぎない。細胞は生き物をかたちづくる一番小さな単位で、そこでは基本的な生命活動が行われている。細胞はいわば「最も小さいのち」であり、このことを子供達にも理解してもらうための展示である。このポケットミュージアムでは、いろいろな大きさや種類の細胞を実物、あるいはイラストによって解説している。細胞の内部を説明した精巧な細胞の内部の模型や、細胞の標本（タマネギやヒトの血球）を実際に顕微鏡をのぞいて観察できるコーナー、幼児向けの細胞パズルのコーナーなども設置している。



(山根明弘)

(2)「地震のしくみ」

期間：平成23年7月7日（木）～現在

会場：自然史ぽけっとミュージアム No. 8

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、わが国における観測史上最大規模の地震であり、東北地方を中心に大きな被害（いわゆる東日本大震災）をもたらした。本展示は、「地震に関する知識や情報の提供は博物館が果たすべき役割のひとつ」との思いから、自然現象としての



地震に対する理解を促すことを目的として企画・実施された。日本周辺のプレートと活断層の立体地図や震源分布の立体模型などを展示し、日本で地震が多発する理由や地震の発生メカニズムなどをプレート運動の視点から解説した。また、北九州市内に存在する活断層（小倉東断層）のはぎとり標本を展示し、地震を身近な問題として考えることの必要性を強調した。

(森 康)

(3) 「近代産業界の雄・安川家秘蔵のコレクション」

期間：平成23年4月9日（土）～平成23年5月30日（月）

※ただし5月9日（月）は作品入替のため休室

会場：歴史ぽけっとミュージアム No. 9・10・11

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

安川敬一郎（1849～1934）は北九州を代表する企業家で、私立明治専門学校（現・九州工業大学）の創設者として知られている。博物館は1980年11月に安川敬一郎日記などの関係資料を、2009年4月に安川家伝来の美術品などの寄贈を受け、その調査・研究を継続的に行っている。本展はこれ



らの歴史資料や美術品を紹介し、近代の北九州における安川家の足跡を明らかにしたものである。辛亥革命百年の記念年に、革命の指導者孫文が安川敬一郎に贈った「世界平和」の扁額を展示したという点でも画期的であった。そのほか、明治専門学校で収集され、博物館に寄託されている鉱物コレクションも合わせて展示した。

（日比野利信・古谷優子）

(4) 「いまと1500年前、くらしクラベ展」

期間：平成23年6月4日（土）～平成23年9月5日（月）

会場：歴史ぽけっとミュージアム No. 10

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

長年にわたる発掘調査や研究の成果により、古代の生活については、ある程度のことが判明してきた。また、“考古学者”という研究者についても、アニメやテレビ番組に取り上げられることなどから、一般の方々にとってはおおよそイメージできる存在であろう。



いっぽうで歴史や考古学に詳しくない人々、興味を抱かない人々にとって、依然として古代のイメージは希薄である。また特に学校の授業で歴史を習う前の子どもたちにとって、古代や古墳時代という時代は非常にイメージしにくい。

本展では、古墳時代出土資料と並べて身近な現代の生活用具を展示することで、当時の生活について想像をめぐらし、理解してもらうことを目的としておこなった。

（宮元香織）

(5)「堀切辰一コレクション 襦袢～てぬぐい～」

期間：平成23年6月4日（土）～平成23年9月5日（月）

会場：歴史ぽけっとミュージアム No.11

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

堀切辰一氏が収集し、当博物館が所蔵する古布コレクション「襦袢」（らんる）はそれが用いられた当時の人びとの生活を知るすぐれた生活資料である。本展覧会では、コレクションの中から「て



ぬぐい」に注目し、てぬぐいの種類や用途からわかる庶民の暮らしを紹介した。展示は三部構成で、まず「てぬぐいの歴史」では、手拭がもともと装身具として使用されていたことを浮世絵をもとに手拭の被り方を再現展示した。次に「てぬぐいの用途」では、広告や土産、装身具など、手を拭く以外のさまざまな用途を紹介した。最後に「てぬぐいの転用」では、襦袢や帯芯など人の目に触れない衣料に手拭が転用されており、衣料が貴重であったことを示した。

(上野晶子)

(6)「剣と刀～日本刀まめ知識～」

期間：平成23年6月4日（土）～平成23年9月5日（月）

会場：歴史ぽけっとミュージアム No.9

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

日本列島に鉄製の剣や刀が伝来し、列島内で両刃の剣が作られ、やがて刀が誕生した。刀は、焼き入れによって反りを持つようになり、江戸時代になると芸術品にまでなった。

この展示では、館所蔵の刀を展示して、日本の歴史の中で日本刀がどのように出現・発展したかを説いた。また、広島県立歴史民俗資料館所蔵の資料を借用・展示し、日本刀の製作工程も展示した。

構成は以下の通りである。

- 1) 直刀の時代—弥生時代、古墳時代の刀（大刀）—反りのない直刀
- 2) 日本刀の出現—平安時代末期以降—反り（湾曲した）のある刀
- 3) 刀剣の種類
 - ・太刀と刀
 - ・脇差と短刀
- 4) 筑前刀
- 5) 日本刀が出来るまで



(松井和幸)

(7) 「染織と工芸展」

期間：平成23年9月10日（土）～平成23年12月5日（月）

会場：歴史ぽけっとミュージアム No.9・10・11

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

当館所蔵の古布コレクション「襤褸」を収集した堀切辰一氏が主宰する「庶民時代裂研究会」の会員による所蔵品展である。会員は全国に在住する染織家や収集家で、独自の視点で布を収集・製作している。企画・運営は北九州市立自然史・歴史博物館と北九州市立大学文学部八百研究室が共同で行い、展示構成に基づいて会員に所蔵資料の出品を依頼した。



展示は、(1) 布が伝える暮らし、(2) 人びとが生きた記憶を伝える～堀切辰一と山本作兵衛～、(3) 染織は語る、(4) 現代に生きる伝統工芸の4つから構成されている。(1) では布からうかがえる庶民のくらしや心情、(2) ではヤマに生きた人びとを描いた山本作兵衛の作品と同時代の庶民が使用した衣類、(3) では日本各地で生み出された布を作る技術と人々の知恵、(4) では現代に受け継がれる布への想いや美意識について紹介した。

(上野晶子)

(8) 山本作兵衛氏の炭鉱記録画と近代の石炭業

期間：平成23年12月10日（土）～平成24年4月9日（月）

会場：歴史ぽけっとミュージアム No.9

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

田川市の所蔵作品がユネスコの「世界記憶遺産」に登録された山本作兵衛氏の炭鉱記録画。本展は、博物館が所蔵する山本氏の作品と関連資料を展示し、炭鉱（ヤマ）が次々と閉山していった際に、山本氏が伝えようとした炭鉱（ヤマ）の記憶を明らかにした展覧会。博物館所蔵作品9点のうち8点や、山本氏が「しまつの悪い圧制」として批判した炭鉱札、八幡西区香月にあった大辻炭鉱の関連資料などを展示した。



(日比野利信)

(9) 「わたしたちのまちの昔の暮らし」

期間：平成23年12月10日（土）～平成24年4月9日（月）

会場：歴史ぽけっとミュージアム No. 10・11

入場料：常設展料金のみで観覧可能

概要

小学校社会科単元「わたしたちのまちの昔の暮らし」に即し、地域の人々の生活について、古い道具やそれを使っていたころの暮らしの様子についての展示を行った。No. 10 では、明治から昭和にかけての昔の道具を並べ、電気製品がほとんどない時代の道具を通して、当時の暮らしを紹介した。No. 11 では、徐々に家電が浸透していった昭和の部屋の様子を再現した。また、北九州市の祭りのうち、大積神楽、楠原踊り、藍島の盆踊り、道原楽、脇の浦はだか祭り、乙松のほら貝祭り、前田祇園山笠、野面の盆踊り、天籟寺の盆踊り、尻振り祭り、しびきせ祭り、わいわい祭りを取り上げ、パネル及び衣装などを展示した。

(上野晶子・古賀久美子)



1 1. 教育普及活動

(1) 博物館セカンド・スクール事業

博物館が第2の学校（教室）として、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、(1) 博物館への誘致事業 (2) 学校教育支援事業 (3) 家庭教育支援事業の3つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館との結びつきを強めるための事業。

1) 博物館への誘致事業

- 博物館誘致事業
修学旅行等の団体客を誘致するため学校へのガイダンスビデオ、パンフレット類送付及び旅行会社へのはたらきかけ
- 博物館利用案内事業
情報誌「いのちのたび」を1回/月、幼稚園・保育所向け情報誌を2回/年発行
- 情報発信手段活用による誘致活動
博物館ホームページ、市政だより等の活用

2) 学校教育支援事業

- 博物館活用資料整備事業
各種ガイドブック、ワークシート、体験活動プログラム資料等の整備
- 体験学習プログラムの提供
化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡、化石発掘体験等、7種類の体験学習の提供
- 授業づくり支援
「博物館利用の手引き」の活用、小学校への出前授業、「昔の道具調べ」等館内での授業、ディスカバリーボックスの学校への貸し出し、職場体験学習、教員研修の受け入れ等
- 環境体験科（北九州市教育委員会主催、市内小学校4年生対象の体験活動、平成23年度は33校を受入）
- ぽけっとミュージアム No. 8 の展示補助
- その他
北九州市小学校学童科学研究作品展会場、九州地区理科教育研究大会福岡（北九州）大会前年度研修会会場

3) 家庭教育支援事業

- いのちのたび子ども教室（学芸員による講話、体験学習）
- 東田サマースクール（近隣の3施設と合同で体験学習）

【各事業の学校関係利用状況】

○市内外の学校関係誘致実績

団体	保・幼	小学校	中学校	他学校	合計
団体数	239	873	119	67	1,298
人数	14,354	60,706	11,006	2,734	88,800

○体験プログラム受講者数

団体数	受講者数
196	7,583

(団体予約システム入力分)

○出前授業・館内授業団体数、参加人数

団体数	参加人数
44	2,817

(「土地のつくり」、「昔の道具調べ」)

○いのちのたび子ども教室

教室数	各参加人員	のべ参加人員
16	20	320

(2) 普及講座

1) 自然史系の普及講座

自然史に親しみ、理解を深めてもらうため各学芸員の専門分野の講座を28回企画、雨天中止が2回あったため、26回の実施となった(野外観察会：7回(うち2回雨天中止)、室内講座：2回、たいけん講座：14回、夏休み教室：4回、バスハイク：1回)。合計660名の参加があった。

種別	講座名	開催日	曜	人数
野外観察会	都市林のモニタリング型植物観察会(春の部)	平成23年4月17日	日	15
野外観察会	バードウイーク市民探鳥会	平成23年5月15日	日	31
野外観察会	都市林のモニタリング型植物観察会(夏の部)	平成23年7月17日	日	15
野外観察会	都市林のモニタリング型植物観察会(秋の部)	平成23年10月16日	日	11
野外観察会	ジオ・ハイキング(平尾台)	平成23年11月23日	水・祝	0(雨天中止)
野外観察会	ズグロカモメを見る!	平成24年1月22日	日	0(雨天中止)
野外観察会	カワセミを見る!	平成24年2月12日	日	21
室内講座	化石研究最前線	平成23年5月8日	日	33
室内講座	恐竜研究さほんの「き」：分類すること	平成23年10月15日	土	4
たいけん講座	親子de野菜からDNAをとりだしてみよう!!	平成23年5月14日	土	11
たいけん講座	いろいろなかたちのアンモナイトにさわってみよう!	平成23年5月29日	日	22
たいけん講座	顕微鏡で見る鉱物の世界	平成23年6月7日	日	29
たいけん講座	顕微鏡で見る鉱物の世界	平成23年6月7日	日	27
たいけん講座	昆虫標本の作り方	平成23年6月19日	日	55
たいけん講座	「けもの」の毛と骨の観察	平成23年11月27日	日	15
たいけん講座	自然放射能の観察	平成23年12月4日	日	2
たいけん講座	フライドチキンから知る恐竜の骨学	平成23年12月10日	土	16
たいけん講座	貝やアンモナイトなどの生き物の殻の形の不思議を探る	平成23年12月11日	日	28
たいけん講座	自然史工作教室「ムササビとタネのグライダー」	平成23年12月11日	日	10
たいけん講座	鳥はなぜ飛べる?鳥だこを作って考えよう!	平成23年12月18日	日	47
たいけん講座	今年一番の大そうじ!恐竜すす払い!!	平成23年12月25日	日	10
たいけん講座	親子で野菜からDNAをとりだしてみよう!!	平成24年1月22日	日	36
たいけん講座	小さな化石にふれてみよう!	平成24年3月20日	火・祝	36
夏休み教室	皿倉山の昆虫と植物の観察会	平成23年7月23日	土	70
夏休み教室	海岸生物の観察	平成23年7月29日	金	36
夏休み教室	化石の調べ方	平成23年7月30日	土	28
夏休み教室	植物の名前調べ	平成23年8月28日	日	19
バスハイク	ジオ・ツアー【学芸員とめぐる化石発見の旅】	平成23年10月30日	日	33

この他、特別展に関連した講座として下記を開催した。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
特別展関連イベント	タカアシガニの甲羅でお面を作ろう！	平成23年5月1日	日	69
特別展関連イベント	タカアシガニの甲羅でお面を作ろう！	平成23年5月8日	日	
特別展関連イベント	タカアシガニの甲羅でお面を作ろう！	平成23年5月15日	日	
特別展関連イベント	タカアシガニの甲羅でお面を作ろう！	平成23年5月22日	日	
特別展関連イベント	イブニングミュージアム	平成23年7月22日	金	150
特別展関連イベント	シロヘビ教室（前半）	平成23年7月31日	日	56
特別展関連イベント	シロヘビ教室（後半）	平成23年7月31日	日	70
特別展関連イベント	ファミリーコンサート	平成23年8月6日	土	100
特別展関連イベント	カエル検定2011	平成23年8月19日	金	39
(合計)				484

2) 歴史系の普及講座

歴史や文化にかかわる講座を実施し、理解につとめた。連続講座を実施し、より深い学習を求める方々に向けた講座をおこなった。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
連続講座	近世文書読み方入門講座（全10回）	平成23年4月～平成24年3月	第1・3水	16
連続講座	近世文書読み方応用講座（全10回）	平成23年4月～平成24年3月	第2・4水	21
体験講座	こどもの日「若武者に変身！」	平成23年5月5日	木・祝	38
体験講座	小倉織入門講座	平成23年8月7日	日	18
体験講座	草木で染めるてぬぐい	平成23年8月27日	土	20
体験講座	小倉織入門講座	平成23年11月13日	日	14
(合計)				127

3) 自然史・歴史合同の普及講座

「いのたび自然塾」と称して、自然史課・歴史課共同で自然学習園などにおいて自然の恵みや古来から行われてきた年中行事などを体感するイベントを実施した。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
いのたび自然塾	親子で！エンドウ豆のお勉強！！	平成23年5月21日	土	40
いのたび自然塾	藍のたたき染めでオリジナルエコバッグを作ろう	平成23年7月30日	土	25
いのたび自然塾	藍と塩で染めるシルクのハンカチ	平成23年8月5日	金	12
いのたび自然塾	十五夜と重陽の節句 お月見オブジェを作ろう！	平成23年9月4日	日	16
いのたび自然塾	秋分 博物館で秋の七草を観よう	平成23年9月23日	金・祝	25
いのたび自然塾	博物館の収穫祭 おイモさん祭り～掘ったり食べたり	平成23年10月29日	土	11
いのたび自然塾	どんぐりと遊ぼう！食べよう！	平成23年11月6日	日	24
いのたび自然塾	ガラスの不思議とトンボ玉づくり	平成23年12月3日	土	29
いのたび自然塾	正月 しめ縄づくり	平成23年12月18日	日	8
(合計)				190

(3) 博物館実習

1) 自然史課 博物館実習

学芸員課程の学生 14 名を受け入れ、各学芸員が数講座ずつ担当した。2 期に分け各期間内で 5 日間と 10 日間を学生が選択。

*1 期（8 月 16 日（火）～8 月 27 日（土）：日曜・月曜休講の 10 日間）

- ・ 人数：10名（うち1名は5日間）
- ・ 所属大学：大分大学1名、北九州市立大学1名、九州産業大学1名、近畿大学1名、筑紫女学園大学1名、筑波大学1名、福岡大学2名、福岡教育大学2名
- *2期（8月30日（火）～9月11日（土）：日曜・月曜休講の10日間）
- ・ 人数：4名（うち1名は5日間）
- ・ 所属大学：北九州市立大学1名、九州大学1名、同志社女子大学1名、福岡大学1名

2) 歴史課 博物館実習

学芸員課程の学生10名を受け入れ、各学芸員が担当した。2期に分け通期10日間と半期5日間を学生が選択。また別に不定期で北九州市立大学の学芸員課程の学生2名をそれぞれ計10日間ずつ受入れた。

- *通期（7月26日（火）～7月30日（土）、9月6日（火）～9月10日（土））
- ・ 人数：8名
- ・ 所属大学：九州産業大学2名、西南学院大学1名、筑紫女学園大学1名、福岡大学4名
- *1期のみ（7月26日（火）～7月30日（土））
- ・ 人数：1名
- ・ 所属大学：青山学院大学1名
- *2期のみ（9月6日（火）～9月10日（土））
- ・ 人数：1名
- ・ 所属大学：山口県立大学1名
- *不定期（10月～1月までの10日間）
- ・ 人数：2名
- ・ 所属大学：北九州市立大学2名

(4) 職場体験・インターン等

各機関から依頼を受け、館内の視察・解説、職場体験、インターン等への対応を行った。

- ・ 対応件数計：54回・1300名以上に対応
- ・ 主な依頼先：県内外の教育機関（小学校～大学）、NPO法人、博物館、役所内各部署等

(5) 館外での講演等

依頼を受けた講演会等で市民・一般の方々へ、各学芸員の専門分野の講話や解説を行った。

- ・ 対応件数計：36回・1800名以上に対応
- ・ 主な講演先：小中学校（市内）、高等学校等教育機関（県内外）、市民カレッジ（生涯学習センター主催・5回の講座）、各自治体、メディア等

(6) 公務による大学での講義

- ・ 北九州市立大学
「自然史へのいざない」自然史課学芸員全員 受講生約160名

- 「遺伝と生命」山根明弘 受講生 2 名
- 「地球環境概論」武石全慈・真鍋徹 受講生 134 名
- ・九州国際大学
 - 「北九州地域におけるジオパーク構想について」太田泰弘 受講生 130 名
- ・福岡教育大学
 - 「博物館学 B」太田泰弘 受講生 15 名
- ・福岡大学
 - 「博物館学 A」上田恭一郎 受講生 94 名
 - 「博物館学 C」上田恭一郎 受講生 22 名
 - 「博物館実習事前講義」馬場 稔 受講生 13 名
 - 「博物館学 B」馬場 稔 受講生 79 名
- ・九州大学
 - 「先端学際科学」森 康 受講生 200 名
 - 「博物館情報論」松井和幸 受講生 32 名
 - 「視聴覚メディア論」松井和幸 受講生 45 名
- ・放送大学
 - 「生きものの多様性と同一性」伊藤明夫、上田恭一郎、馬場 稔、山根明弘 受講生 36 名

(7) 団体・委員会への就任依頼

- ・ 上田恭一郎（自然史課）
 - ・ 第 7 期北九州市環境影響評価審査会委員（北九州市）
 - ・ 北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会委員（北九州市）
 - ・ 山口県立山口博物館協議会委員（山口県）
 - ・ 西日本自然史系博物館ネットワーク「標本救済ネット」ケースワーカー（西日本自然史系博物館ネットワーク）
 - ・ 希少野生動植物種保存推進員（環境省）
- ・ 藪本美孝（自然史課）
 - ・ 北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会分科会委員（北九州市）
 - ・ 恒見朽網線環境影響評価に伴う環境保全措置全体検討会委員（北九州市）
 - ・ 恒見朽網線環境影響評価に伴う環境保全措置魚類・動物作業部会委員（北九州市）
 - ・ 明治学園中学高等学校 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）運営指導委員会委員（明治学園中学高等学校）
 - ・ 白山市手取層群化石調査団委員（石川県白山市）
- ・ 馬場 稔（自然史課）
 - ・ 福岡県環境審議会委員（福岡県）
 - ・ 福岡県特定鳥獣（シカ）保護管理検討委員会委員（福岡県）
 - ・ 福岡県特定鳥獣（イノシシ）保護管理検討委員会委員（福岡県）
 - ・ 特別天然記念物カモシカ食害対策事業保護指導委員（大分県）

- ・ 「八代のツルおよびその飛来地」保護対策策定調査研究委員会委員（山口県）
- ・ 真鍋 徹（自然史課）
 - ・ 北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会分科会委員（北九州市）
 - ・ 恒見朽網線環境影響評価に伴う環境保全措置全体検討会委員（北九州市）
 - ・ 恒見朽網線環境影響評価に伴う環境保全措置植物・鳥類作業部会委員（北九州市）
 - ・ 明治学園中学高等学校 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）運営指導委員会委員（明治学園中学高等学校）
 - ・ 福岡県希少野生生物調査植物分科会委員（福岡県）
 - ・ Science for All Fukukans ネットワーク運営委員会委員（九州先端科学技術研究所）
 - ・ 遠賀川自然再生計画検討委員会委員（国土交通省）
 - ・ 小石原ダム環境保全対策検討委員会委員（水資源機構）
- ・ 武石全慈（自然史課）
 - ・ 板櫃側後肢欠損ガエル調査検討委員会委員（北九州市）
 - ・ 北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会委員（北九州市）
 - ・ 福岡県希少野生生物調査検討委員（福岡県）
 - ・ 「八代のツルおよびその飛来地」保護対策策定調査研究委員会委員（山口県）
 - ・ 「全国的な自然史系標本セーフネット構築」のためのワーキンググループ委員（国立科学博物館）
- ・ 太田泰弘（自然史課）
 - ・ 県内の地質鉱物に関する会議委員（福岡県）
- ・ 山根明弘（自然史課）
 - ・ 北九州市動物愛護推進懇話会委員（北九州市）
 - ・ 北九州学術・研究都市貴重種対策検討委員会分科会委員（北九州市）
 - ・ 小石原川ダム環境保全対策検討委員会委員（水資源機構）
 - ・ 宇佐市オオサンショウウオ保護管理委員会委員（宇佐市）
 - ・ 岩国市シロヘビ調査研究委員会委員（岩国市）
- ・ 森 康（自然史課）
 - ・ 県内の地質鉱物に関する会議委員（福岡県）
 - ・ 日本鉱物科学会博物館委員会委員（日本鉱物科学会）
- ・ 下村通誉（自然史課）
 - ・ 福岡県希少野生生物調査検討委員（福岡県）
 - ・ 博多湾環境保全計画推進委員会委員（福岡市）
 - ・ 福岡市新西部水処理センター環境モニタリング委員会委員（福岡市）
 - ・ 西日本自然史系博物館ネットワーク「標本救済ネット」ケースワーカー（西日本自然史系博物館ネットワーク）
 - ・ 無脊椎動物におけるデータベース作成上の問題点の検討委員会委員（大阪市立自然史博物館）
- ・ 日比野利信（歴史課）

- ・ 春日市文化財専門委員会委員（春日市）
- ・ 宮元香織（歴史課）
- ・ 宗像市文化財保護審議委員会委員（宗像市）
- ・ 佐賀県文化財保護審議会委員（佐賀県）

(8) 館長出前授業

北九州市内の小・中学校を対象に専門的な見地から自然科学分野についての講演を行うことで、児童生徒の科学に対する興味・関心を高め、生涯にわたって知的好奇心を育んでいく基礎と生命を尊ぶ心情を育てることを目的とする。また、いのちのたび博物館の認知度を高め、博物館は身近なものであるという認識を形成し、当館のイメージアップを図る。

- ・ 小学校出前授業
 - 1) 北九州市立到津小学校（平成 24 年 1 月 24 日）「いのちのたび～唯一無二のいのち～」
 - 2) 北九州市立大谷小学校（平成 24 年 3 月 1 日）「いのちのたび～唯一無二のいのち～」
- ・ 中学校出前授業
 - 1) 北九州市立洞北中学校（平成 23 年 11 月 8 日）「いのちのたび～唯一無二のいのち～」
 - 2) 北九州市立菊陵中学校（平成 23 年 12 月 15 日）「いのちのたび～唯一無二のいのち～」

(9) その他

学芸員と研究協力等の関係にある外部組織と、館内を会場としてワークショップ等を実施し、多くの方々に博物館をより広く知ってもらう機会を設けた。

- ・ SAFnet（Science for All Fukukans ネットワーク）イベント「まちのみどりの使い方」「ハマグリを知る・作る・遊ぶ」（平成 23 年 8 月 21 日（日）、ガイド館・実習室、90 名、担当者：真鍋、下村、古谷、小松）
- ・ 福岡県環境教育学会第 25 回例会（パネルディスカッション、展示解説、化石レプリカづくり体験）（平成 23 年 10 月 23 日（日）、ガイド館・実習室、43 名、担当者：太田、MT）

12. 博物館ボランティア（シーダー）の活動について

(1) 人数

- ・登録人数 62名 [男性 27名 女性 35名]
 20代(3名) 30代(3名) 40代(4名) 50代(12名)
 60代(23名) 70代(16名) 80代(1名)

(2) 活動実績

- ・延べ日数 355日
- ・延べ活動回数 2,963回(平均47.8回/年・人)

(3) 活動内容

- ・主な活動としては、館内案内、常設展・特別展解説、スポット解説、ミュージアムティーチャーの体験学習プログラム補助(化石レプリカ・顕微鏡・勾玉・DNA・化石発掘・昔の道具調べ・環境体験科等)、学芸員の普及講座補助、子ども教室・東田サマースクール補助他を行った。
- ・それぞれの得意分野を生かしての活動としては、様々な恐竜や生き物などの「折り紙」、九州の民話から抜粋した「手作り紙芝居」、お手玉・こま回しなどの「昔あそび」、綿の栽培・収穫・糸紡ぎ・機織り体験をする「小倉織」等を行った。

(4) 研修

- ・毎月1回の学芸員との「交流ゼミ」を通して、シーダーとしての資質の向上に努めた。

	実施日	曜	講話題 (話者)	人数
第74回	4月12日	火	「細胞雑話」(伊藤明夫)	38名
臨時	4月25日	月	「エビとカニのふしぎ・杉浦千里博物画の世界解説」(下村通誉)	20名
第75回	5月10日	火	「幕末の動乱と小倉・黒崎―幕末の事件情報はどのようにして伝えられたか―」(守友隆) 「エビとカニのふしぎ展もっと詳しい話!」(下村通誉)	27名
第76回	6月14日	火	「ブラジル産魚類化石産地を訪ねて―リオデジャネイロ州立大学との共同研究―」(藪本美孝) 「むかしの人が考えた昆虫の分類」(上田恭一郎)	25名
第77回	7月27日	水	「特別展「世界の両生類・爬虫類大集合!」解説」(山根明弘) 「化石クリーニングについて」(御前明洋)	24名
第78回	8月31日	水	「森に穴があく」(真鍋徹) 「中国のジオパークと博物館」(太田泰弘)	22名
第79回	9月13日	火	「変成岩をめぐる2つの立場」(森康) 「染織と工芸展解説 一堀切辰一と庶民時代裂研究会」(上野晶子)	17名
第80回	10月25日	火	「旅順博物館所蔵満鉄写真の調査と展示」(日比野利信) 「絶滅危種カムリウミスズメの今」(武石全慈)	18名
第81回	11月24日	木	「東日本大震災文化財レスキュー参加報告」(松井和幸) 「東日本大震災標本レスキュー参加報告」(大橋智之)	12名
第82回	12月27日	火	「蛹の鳴く蛾シンジュキノカワガ」(上田恭一郎) 「三環鈴の研究について」(宮元香織)	16名
第83回	1月27日	金	「老岐の中新世淡水魚類化石について」(藪本美孝) 「大内氏の対アジア交易と美術品」(古谷優子)	23名
第84回	2月28日	火	「福岡県レッドデータブック2011:2001年度版からの哺乳類の改訂について」(馬場 稔) 「魚やエビ・カニに寄生する甲殻類」(下村通誉)	24名
臨時	3月13日	火	「アンモナイトのふしぎ展解説」(御前明洋)	22名

- ・シーダー研修実施 ボランティア講座生21名 参加
 日時 平成24年3月9日(金) 9:00~17:00
 場所 西の京 山口 「大内文化をめぐる旅」
 洞春寺…瑠璃光寺…常栄寺…雪舟庭

13. 自然史友の会の活動

目的

博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

会員数

674名（平成24年3月末現在）

役員等

会長：小林 繁、副会長：原田隆好・土佐野 実、幹事長：新海義治、事業担当幹事7名、出版担当幹事10名、庶務会計担当幹事4名、会計監査2名、評議員37名、顧問13名

年会費

正会員：大人 3,000円、小・中・高生 1,000円、家族 4,000円、賛助会員 10,000円

活動内容

- (1) 会誌「わたしたちの自然史」の発行（B5版、総カラー24ページ）
第116号（7月1日発行）：「北九州市門司区の峠の植物」など11件の調査報告等
第117号（8月30日発行）：「ガシヤモク復活に向けて」など18件の調査報告等
第118号（12月15日発行）：「ジュラ紀アンモナイト物語」など7件の調査報告等
第119号（3月1日発行）：「八幡高校が保管していたオオサンショウウオ」など8件の調査報告等
- (2) 研究部会の活動：例会の実施
地質鉱物（第122～128回例会）、化石（第314～320回例会）、植物（第123～127回例会）、昆虫（データ入力12回、ジュニア観察会2回）、水生動物（第283回例会）、両生・爬虫類（第151～159回例会）、鳥類（第121回例会）
- (3) 研究部会合同野外観察会の実施
9月25日に芦屋町夏井ヶ浜と狩尾岬にて実施。参加者65名（大人53名、子供12名）。
- (4) 博物館との共催の野外観察会の実施
野外観察会・夏休み教室・バスハイクを12回実施。
- (5) 自然史友の会主催室内講座「植物細密画を描いてみよう！」の実施（一般市民向け）
第1回（6月19日、参加者10名）と第2回（10月16日、参加者24名）を博物館にて実施。
- (6) 自然史友の会講座「サメ大解剖、ホシザメの体のしくみをしらべよう」の実施（会員向け）
2月5日に博物館にて実施。参加者35名（大人14名、中学生2名、小学生8名、幼児1名）。
- (7) 研究発表会の実施
4月29日に博物館にて「福岡市長垂山のトリプル石」など7件の発表。参加者65名。
- (8) 会議等の実施
総会（4月29日）、親睦会（4月29日）、評議員会（3月20日）、三役会（1回）、出版担当幹事会（3回）、事業担当幹事会（2回）、庶務会計担当幹事会（1回）を実施。

14. 歴史友の会の活動

目的

本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、正しい古代史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第2条）。

会員数

214名（平成24年3月末現在）

役員等

会長：山中英彦、副会長：林義秀・野口委有、顧問：石田友安・上田功、会計3名、監事2名、企画担当5名、会員管理担当2名、講座運営担当15名、遺跡見学運営担当10名、広報・会誌編集5名

年会費

正会員：4,000円 賛助会員：10,000円以上 臨時会員：実費（資料代）700円

活動内容（平成23年度）

- (1) 会誌「友の会だより」の発行（A4版、総カラー6ページ、年3回）
- (2) 講演会

日時	講演タイトル	講師	参加人数
4月23日 (土)	神宮皇后説の検討 —補遺 倭の五王の時代—	元西南学院大学教授 長 洋一	149名
6月18日 (土)	下関市における近代戦跡について	下関市教育委員会 中原周一	130名
	「翔ぶがごとく」を掘る —西南戦争遺跡の発掘調査—	熊本市教育委員会 中原幹彦	
7月24日 (土)	最近の邪馬台国論争	元産業能率大学教授 安村美典	164名
8月21日 (土)	九州の古代木簡	九州国立博物館 酒井芳司	105名
9月10日 (土)	シンポジウム 検証！小倉織	築城則子（染織家）、永尾正剛（元北九州市立自然史・歴史博物館学芸員）、大和恵子（豊前小倉織研究会代表）	66名
10月15日 (土)	研究集会「海の古墳を考えるⅠ」基調講演	韓国慶北大学校考古人類学科教授 朴天秀 行橋市歴史資料館館長 山中英彦	101名
12月10日 (土)	メディアからみた考古学報道	朝日新聞西部本社編集委員 中村俊介	87名
1月22日 (土)	特別展「大内文化と北九州」記念講演 大内氏の対外交渉	九州大学大学院教授 佐伯弘次	189名
3月17日 (土)	陵墓の歴史概観 —陵制の変遷を中心に—	宮内庁書陵部陵墓課 福尾正彦	150名

(3) 遺跡見学会

日時	場所	参加人数
5月28日(土)～5月29日(日)	壱岐(一支国博物館、双六古墳ほか)	52名
6月12日(日) 新入会員見学会	市内及び周防灘沿岸部の遺跡	16名
10月1日(金)～3日(日)	奈良・法隆寺、藤ノ木古墳ほか	54名
11月13日(日)	甘木市・筑前町(仙道古墳・平塚川添遺跡ほか)	57名
2月19日(日)	九州歴史資料館、春日奴国の丘資料館ほか	59名

15. 資料の収集保存状況（自然史）

(1) 平成 23 年度資料登録状況（点）

平成 23 年度の自然史資料登録点数は下記の通りとなっている。

	22 年度末累計	23 年度登録数					23 年度末累計
		寄贈	寄託	購入	採集	小計	
生物系	77,064	127	0	462	105	694	77,758
地学系	32,318	1,064	359	37	20	1,480	33,798
合計	109,382	1,191	359	499	125	2,174	111,556

(2) 平成 23 年度収集資料の概要（主な収集標本：未登録資料を含む）

点数の上では寄贈標本の比重が大きいが、特別展・企画展での展示を目的とした資料の収集にも努めている。また、過去に寄託された資料についても確認作業を進めている。

寄贈：原田隆好コレクション（化石等）2,136 点、亀井俊幸コレクション（九州産アンモナイト）13 点、小野山敬一コレクション（アリ類標本）1,269 点、奥村正美コレクション（ハワイ産昆虫標本など）1,011 点、九州大学鉱物模式標本 2 点、個人寄贈スマトラトラ・ルサジカ剥製標本各 1 点、など

購入：紅鉛鉱など鉱物標本 13 点

作成委託：モササウルスレプリカ作成委託など

16. 資料の収集保存状況（歴史）

(1) 平成 23 年度資料収集状況（点）

平成 23 年度の歴史資料の収集状況は下記の通りとなっている。

	22 年度末累計	23 年度登録数					23 年度末累計
		寄贈	寄託	購入	採集	小計	
歴史系	25,575	4,531	410	1	0	4,942	30,517
考古系	43,885	0	0	0	0	0	43,885
合計	69,460	4,531	410	1	0	4,942	74,402

(2) 平成 23 年度収集資料の概要

寄贈：堀切辰一氏古布コレクション 213 点（堀切辰一氏寄贈）

大工道具 124 点（長野敏旦氏寄贈）

骨董品類 26 点（福留時代氏寄贈）

戦時資料 12 点（中山雍子氏寄贈）

戸畑祇園写真 パネル 71 枚・フィルム 4,059 枚（戸畑祇園振興会寄贈）

かんざし類 26 点（荒木誠之氏寄贈）

寄託：福聚寺資料 411 点（福聚寺所蔵）

※小笠原忠真所用具足追加分（甲・佩楯・籠手）

小倉織袴など 2 点

購入：孫文書「世界平和」扁額複製 1 点

17. 資料の貸出状況（自然史・歴史）

番号	担当課	資料名	点数	貸出先	展覧会名など	貸出期間
1	自然史	恐竜（ハドロサウルス類）部分化石	1式	鈴木大輔（札幌医科大学）	共同研究の一環	H23.04.01.～H26.04.01.
2	自然史	磐瀬太郎氏作パオナミドリシジミ水彩画	1	田淵行男記念館	座談会「田淵行男を語る～磐瀬太郎との交友関係についてなど～」において参考資料として使用	H23.04.10.～H23.04.20.
3	自然史	プロトプテルム類頭骨標本	2	河部壮一郎（東京大学総合研究博物館）	形態学的研究	H23.04.23.～H23.06.28.
4	自然史	モンシロチョウ標本	14	北九州市立萩ヶ丘小学校	授業にて観察	H23.06.13.～H23.06.16.
5	自然史	プロトプテルム類標本レプリカ	3	瑞浪市化石博物館	特別展「Fossil Islands」にて展示	H23.06.14.～H24.01.06.
6	自然史	クジラ全身模型	2	萩博物館	特別展「伝説のクジラキングを追え！」にて展示	H23.06.22.～H23.09.06.
7	自然史	昆虫（ハムシ）標本	114	末長晴輝（北海道大学）	研究比較標本	H23.08.14.～H24.08.14.
8	自然史	クジラ化石等	5	福岡市博物館	特別企画展「日本とクジラ」にて展示	H23.09.上旬～H23.11.18.
9	自然史	九州産タヌキ頭骨標本	10	四国自然史科学研究センター	ホネホネサミット2011にて展示	H23.10.1.～H23.10.31.
10	自然史	チョウセンイタチ剥製標本	1	マリンワールド海の中道	「マリンサイエンスラボ」にてラッコとの比較に使用	H23.12.26.～H24.04.10.
11	自然史	磐瀬太郎氏作パオナミドリシジミ水彩画	1	田淵行男記念館	田淵行男記念館企画展「無二の虫友～磐瀬太郎と田淵行男～」	H24.02.20.～H24.04.30.
12	歴史	宮原遺跡出土土包丁	1	大阪府立弥生文化博物館	常設展	H23.4.1～H24.3.31
13	歴史	長野A遺跡出土力帯	1	九州歴史資料館	謎の福原長者原遺跡と古代の豊前	H23.9.9～H23.11.28
14	歴史	長野A遺跡出土墨書土器	1	九州歴史資料館	謎の福原長者原遺跡と古代の豊前	H23.9.9～H23.11.28
15	歴史	みやこ町台ヶ原遺跡出土石斧	12	みやこ町歴史民俗博物館	弥生時代の下稗田村	H23.10.22～H23.12.17
16	歴史	松本遺跡出土 青銅器鋳型	1	下関市考古博物館	弥生時代の拠点集落	H24.1.31～H24.3.31

18. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）

番号	担当課	資料名	点数	貸出先	掲載紙など	貸出期間
1	自然史	展示標本（アンブロケタス）画像	1	太地町立くじらの博物館	常設展示コンテンツとして使用	H23.04.28.
2	自然史	翼竜標本画像	2	阪急コミュニケーションズ	書籍「Pen Books 恐竜の世界へ」掲載	H23.05.26.
3	自然史	展示標本（トリケラトプス）画像	1	国立科学博物館	特別展「恐竜博2011」図録解説資料として使用	H23.05.26.
4	自然史	化石（プロトプテルム類）頭骨標本CTスキャンデータ	1式	瑞浪市化石博物館	特別展「Fossil Islands～化石の島～」にて展示	H23.07.01.～H23.12.27.
5	自然史	恐竜足跡化石画像	2	山口県立山口博物館	企画展「恐竜～ダイナソーの世界～」解説パネルに使用	H23.08.04.
6	自然史	展示標本（トリケラトプス）画像	1	東北新社	ヒストリーチャンネル番組「恐竜のつくりかた」にて使用	H23.08.19.
7	自然史	展示標本画像（ステゴサウルス）	1	チャイルド本社	児童科学雑誌掲載	H23.08.23.
8	自然史	希少植物生態写真および標本写真	19	福岡県環境部自然環境課	福岡県レッドデータブック改訂版に関して使用	H23.09.10.
9	自然史	展示標本画像（ヒブセロサウルスの卵）	2	読売テレビ放送株式会社	H23.09.21.放送予定 朝生「オ・またん！」内で使用	H23.09.21.
10	自然史	三葉虫等化石関連資料画像	3	第一学習社	高等学校教科書「地学基礎」デジタル教材	H23.11.17.
11	自然史	マツガエサイ画像	1	門司区役所総務企画課	「新門司 彩 発見！ 小倉井筒屋クロスロードキャンペーン」パネル	H24.01.26.
12	自然史	セイスモサウルス、カマラサウルス画像	1式	教研出版株式会社	高等学校「地学基礎」教師用指導書「Studyaid D.B. 指導用デジタル教科書 地学基礎」	H24.02.16.
13	歴史	西国内海名所一覧	1	TBSビジョン	BS-TBS『にっぽん歴史街道』唐津街道編	H23.05.17
14	歴史	小倉碑文拓本	1	株式会社ビーフロント	小倉北区区政番組「きた！区役ショー～小倉人物伝～」	H23.05.24.
15	歴史	孫文書「世界平和」扁額	1	株式会社ムラヤマ	企画展「孫文と日本の友人たち」パネル	H23.05.26.～06.03.
16	歴史	宗祇馬上図	1	光村教育図書株式会社	光村の国語のワーク	H23.10.25.～11.30.
17	歴史	小笠原玲子文書	3	大阪市史編纂所	『新修大阪市史』史料編第7巻「近世II政治2」	H23.11.10.
18	歴史	木綿地小倉織袴（大正時代、福岡県）	1	北九州市立図書館	北九州市立中央図書館『レファレンス事例集』	H.23.12.15.
19	歴史	安政年間小倉城下町屋敷図、小倉表戦争之図、島村志津摩采配、小倉城焼失時の遺物	4	株式会社ビーフロント	小倉北区区政番組「きた！区役ショー～小倉人物伝～」	H24.01.01.～01.10.
20	歴史	飯尾宗祇画像	1	太宰府市役所	『太宰府市市勢要覧』2012年度版	H24.03.31.

19. 学芸員研究業績（自然史）

(1) 論文

- 宮田真也・籾本美孝・平野弘道. (2012) コイ科魚類タイワンアカハラ *Candidia barbatus* (Regan, 1908) の骨学的研究. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 A類 自然史, (10): 101-121.
- Tashima, S., Y. Kaneko, T. Anezaki, M. Baba, S. Yachimori, A.V. Abramov, A.P. Saveljev and R. Masuda (2011) Identification and molecular variations of CAN-SINEs from the ZFY gene final intron of the Eurasian badgers (genus *Meles*). *Mammal Study*, 36: 41-48.
- Tashima, S., Y. Kaneko, T. Anezaki, M. Baba, S. Yachimori, A.V. Abramov, A.P. Saveljev and R. Masuda (2011) Phylogeographic sympatry and isolation of the Eurasian badgers (*Meles*, Mustelidae, Carnivora): implications for an alternative analysis using maternally as well as paternally inherited genes. *Zoological Science*, 28: 293-303.
- 馬場 稔 (2011) 暗闇のグライダー ムササビとヒヨケザルの比較生態. 九州実験動物雑誌, (27): 33-36.
- Yamamoto, SI., N. Nishimura, T. Torimaru, T. Manabe, A. Itaya and K. Becek (2011) A comparison of different survey methods for assessing gap parameters in old-growth forests. *For. Ecol. Manage.*, 262: 886-893.
- Nakanishi, A., H. Yoshimaru, N. Tomaru, M. Miura, T. Manabe and S. Yamamoto (2012) Patterns of pollen flow in a dense population of the insect-pollinated canopy tree species *Castanopsis sieboldii*. *Journal of Heredity*, 103: 547-556.
- 太田泰弘・藤川将之・太田正道・国光陽子・狩野彰宏 (2012) 北九州市門司区白野江青浜海岸で発見されたアンモノイドについて: 秋吉石灰岩層群と呼野層群の比較 (予察). 秋吉台科学博物館報告, (47): 11-19.
- 山根明弘・華山さゆり・中村智子・砂原はるみ・中川一政・清水祥子・野口明子・小野勇一 (2011) 個体識別法による市街地3地区におけるイエネコ (*Felis catus*) の生息個体数推定. ヒトと動物の関係学会誌, 29: 33-39.
- Shigeno, M., Y. Mori, K. Shimada and T. Nishiyama (2012) Jadeitites with metasomatic zoning from the Nishisonogi metamorphic rocks, western Japan: fluid-tectonic block interaction during exhumation. *European Journal of Mineralogy*, 24: 289-311.
- Shigeno, M., Y. Mori, K. Shimada and T. Nishiyama (2012) Origin of omphacitites from the Nishisonogi metamorphic rocks, western Kyushu, Japan: comparison with jadeitites. *European Journal of Mineralogy*, 24: 247-262.
- Miyazoe, T., M. Enami, T. Nishiyama and Y. Mori (2012) Retrograde Sr metasomatism in serpentinite mélange of the Kurosegawa Zone in central Kyushu, Japan. *Mineralogical Magazine*, 76: 635-647.
- Shimomura, M., S. Ohtsuka. and J. Hashimoto (2012) New distribution and host record of a penaeid ectoparasitic isopod, *Minicopenaeon intermedium intermedium* Bourdon, 1981 (Crustacea: Bopyridae). *Bulletin of the Kitakyushu Museum of Natural History and Human History, Series A, Natural History*, 10: 1-8.
- Shimomura, M., Y. Fujita and T. Naruse (2012) First record of the genus *Thetispelecaris* (Crustacea: Peracarida: Bochusacea) from a submarine cave in the Pacific Ocean. *Zootaxa*, 3367: 69-78.
- Shimomura, M. and N. L. Bruce (2012) A new species of *Halacarsantia* Wolff, 1989 (Crustacea, Isopoda, Asellota, Santiidae) from Wistari Reef, southern Great Barrier Reef, Australia. *ZooKeys*, 173: 1-9.
- Shimomura, M. and K. Kakui (2011) A new species of the genus *Ingolfiella* Hansen, 1903 (Peracarida, Amphipoda) from Ogasawara Is., southern Japan. *Crustaceana*, 84: 543-551.
- Shimomura, M. and S. Ohtsuka (2011) Two new species of ectoparasitic isopods (Isopoda, Dajidae) from mysids in Japan. In: Asakura, A. (ed.) *New frontiers in crustacean biology. Crustaceana Monographs*, 15: 23-30.

- Ohtsuka, S., T. Horiguchi, Y. Hanamura, A. Yamaguchi, M. Shimomura, T. Suzaki, K. Ishiguro, H. Hanaoka, K. Yamada and S. Ohtani (2011) Symbiosis planktonic copepods and mysids with epibionts and parasites in the North Pacific: diversity and interactions. *Crustaceana Monographs*, 15: 1-14.
- Nunomura, N. and M. Shimomura (2012) A new combination of genus name and specific epithet for *Arcturus Iyocarpicola* (Isopoda: Valvifera). *Bulletin of the Toyama Science Museum*, 426: 87-88.
- Yamaki, A., M. Shimomura, M., H. Watanabe, H. Karube and T. Kishimoto (2011) Asellote isopods (Crustacea: Isopoda) from soil habitat in southern Japan. *Proceedings of the International Symposium of Terrestrial Isopod Biology*, Bled, Slovenia, 8: 117-118.
- Iba, Y., J. Mutterlose, K. Tanabe S. Sano, A. Misaki and K. Terabe (2011) Belemnite extinction and the origin of modern cephalopods 35 m. y. prior to the Cretaceous-Paleogene event. *Geology*, 39: 483-486.
- Misaki, A. and M. Ohara (2011) Discovery of *Ainoceras* (Ammonoidea) from the Upper Cretaceous Futakawa Formation in the Aridagawa area, Wakayama, southwestern Japan. *Paleontological Research*, 15: 240-246.
- Shigeta, Y., A. Misaki and M. Ohara (2012) *Gaudryceras tombetsense* Matsumoto, a Maastrichtian ammonoid from the Aridagawa area, Wakayama, southwestern Japan. *Paleontological Research*, 16: 244-251.
- Ohashi, T. 2011. An ornithischian dinosaur tooth from the Lower Cretaceous Okurodani Formation (Tetori Group), Japan. *Paleontological Research*, 15: 185-188

(2) 外部資金取得状況

【科学研究費補助金】

- 基盤研究(C). 新たな自然史資料としての動画の収集・活用手法の構築. 研究代表者: 真鍋 徹. 2011-2013 年度.
- 基盤研究(C). ピアプロダクション, ピアレビューによる博物館展示解説制作の方法の研究. 研究分担者: 藪本美孝 (研究代表者: 池本誠也 (国立科学博物館)). 2009-2011 年度.
- 基盤研究(C). 携帯情報端末による融合連携ミュージアムを目指したインタラクティブ鑑賞支援システム. 連携研究者: 藪本美孝 (研究代表者: 伏見清香 (広島国際学院大学)). 2011-2012年度.
- 基盤研究(C). 博物館空間におけるユーザー視点からの展示評価の実践的研究. 研究分担者: 真鍋 徹 (研究代表者: 平井康之 (九州大学)). 2010-2012 年度.
- 基盤研究(C). 地球科学と考古学を応用した環境教育の原理と効果に関する研究. 研究分担者: 太田泰弘 (研究代表者: 野井英明 (北九州市立大学)). 2010-2012 年度.
- 若手研究(A). 石製装身具の石材分析からみた縄文社会の地域間交流と農耕化への変遷過程の研究. 研究協力者: 森 康 (研究代表者: 大坪志子 (熊本大学)). 2009-2012 年度.
- 若手研究(B). 蛇紋岩メランジにおける交代作用と変形の相互作用. 研究代表者: 森 康. 平成 2009-2011 年度.
- 若手研究(B). 等脚目甲殻類の形態変化を伴う寄生生活への適応に関する系統学的研究. 研究代表者: 下村通誉. 2009-2011 年度.

【科学研究費補助金以外の補助金】

- 成茂動物科学研究助成. 海底洞窟性動物の起源に関する研究. 研究代表者. 下村通誉. 2010-2011 年度.

20. 学芸員研究業績（歴史）

(1) 論文・著書など

- 松井和幸 編著 (2012)『有毛太郎坊山遺跡第2地点』北九州市教育委員会
- 有川宜博 (2012)「山口県文書館所蔵「譜録」にみえる九州関係新出文書の紹介」『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B類 歴史』第9号 (pp. 28-46)
- 日比野利信 (2012)「安川敬一郎日記」山口輝臣編『日記にみる近代日本』大正編
- 宮元香織 (2012)「相島積石塚群について」『海の古墳を考える 1—群集墳と海人集団—』資料集 (pp. 9-20)
- 宮元香織 (2012)「北九州市岡田神社蔵 三環鈴について」『北九州市立自然史・歴史博物館 研究報告 B類 歴史』第9号 (pp. 17-25)
- 上野晶子・大和恵子 (2012)「江戸期製作小倉織の技術的検証」『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B類 歴史』第9号 (pp. 1-16)
- 守友隆 (2011)「幕末期長崎街道における人の移動 筑前国黒崎宿の関番所「覚」と旅籠屋「宿請状」の分析」『福岡地方史研究』第49号 (pp. 66-80)
- 守友隆 (2012)「福岡県立図書館所蔵「黒崎駅鎮座鳥野春日宮国祖黒田宮御由緒略記」の紹介」『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B類 歴史』第9号 (pp. 48-82)

(2) 外部資金取得状況

【科学研究費補助金】

- 基盤研究(C). 考古学から見た中世鋳物師の総合的研究. 研究代表者: 松井和幸. 2011-2013年度.
- 若手研究(B). 東アジアにおける環鈴の基礎的研究. 研究代表者: 宮元香織. 2011-2012年度.
- 基盤研究(S). ユーラシアの近代と新しい世界史叙述. 研究協力者: 上野晶子 (研究代表者: 羽田 正 (東京大学東洋文化研究所)). 2009-2013年度.
- 基盤研究(B). 日蘭関係史の再構築. 研究協力者: 上野晶子 (研究代表者: 松方冬子 (東京大学史料編纂所)). 2010-2013年度.

【科学研究費補助金以外の補助金】

- 福武文化振興財団 歴史学・地理学研究助成 平成22年度「前近代社会における日韓鉄文化の基礎的研究」研究代表者: 松井和幸
- 北九州市立大学特別研究推進費「北九州市立自然史・歴史博物館所蔵資料の研究と活用—古写真及び古布資料を中心として—」研究分担者: 上野晶子 (代表者: 八百啓介, 北九州市立大学)
- 杏雨書屋研究奨励金「『厚生新編』の分析—宇田川玄真の食文化研究の視点から—」研究代表者: 上野晶子

2 1. 博物館刊行物

(1) 研究報告 A 類 自然史 第 10 号 (2012 年 3 月 31 日発行)

New distribution and host record of a penaeid ectoparasitic isopod, *Minicopenaeon intermedium intermedium* BOURDON, 1981 (Crustacea: Bopyridae). Michitaka Shimomura, Susumu Otsuka and Jun Hashimoto. pp.1-8.

Revision of the Subgenus *Limbusa* MOORE, [1897] (Lepidoptera, Nymphalidae, Adoliadini) Part 3. Descriptions of species (2). Takashi Yokochi. pp.9-100.

コイ科魚類タイワンアカハラ *Candidia barbatus* (REGAN, 1908) の骨学的研究. 宮田真也・藪本美孝・平野弘道. pp.101-121.

Tooth replacement pattern in maxillary dentition of basal Neoceratopsia. Kyo Tanoue, Daqing Li and Hailu You. pp.123-127.

A new mysticete from the upper Oligocene Ashiya Group, Kyushu, Japan and its significance to mysticete evolution. Yoshihiko Okazai. pp.129-152.

* 刊行後5年を経た自然史系研究報告および自然史資料第1号 (福岡県産蛾類目録、1984)、第2号 (山田緑地の自然、1992) は2011年4月から当館のホームページ上で公開している。2011年4月から12月までのアクセス総数は16,136件であった。

(2) 研究報告 B 類 歴史 第 9 号 (2012 年 3 月 31 日発行)

【論文】

大和恵子・上野晶子「江戸期製作小倉織の技術的検証」

【資料紹介】

宮元香織「北九州市岡田神社蔵 三環鈴について」

守友隆「福岡県立図書館所蔵「黒崎駅鎮座鳥野春日宮国祖黒田宮御由緒略記」の紹介」

有川宜博「山口県文書館所蔵「譜録」にみえる九州関係新出文書の紹介」

(3) 図書

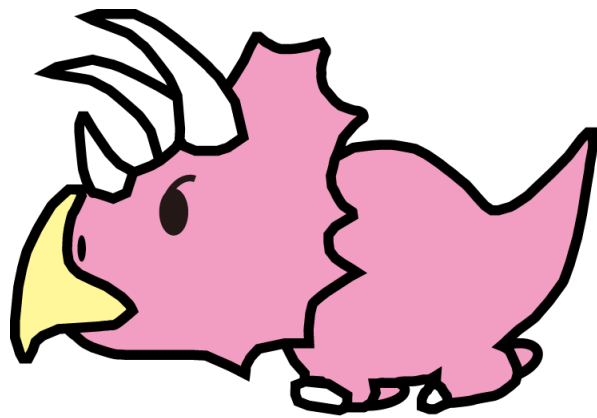
『大連・モダンの風景—旅順博物館所蔵 大連古写真展—』(2011年10月7日発行)

『大内文化と北九州』(2012年1月2日発行)

『安川敬一郎日記』第4巻(2012年3月31日発行)

年 報
平成 23 年度

発行日 平成 25 年 2 月 28 日
編集・発行 北九州市立自然史・歴史博物館
北九州市八幡東区東田 2-4-1
TEL. 093-681-1011
FAX. 093-661-7503
<http://www.kmnh.jp>
北九州市印刷物登録番号第 1208105A 号
印刷・製本 有限会社秀文社印刷
北九州市戸畑区境川 2-3-3



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY